文学研究科事項

文学研究科事項目次

文学研究科長挨拶 …… 140
文学研究科学事暦 …… 141
文学研究科の目的 …… 142
文学研究科各専攻の目的 …… 142
学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） …… 143
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） …… 147
修士課程
　履修方法について …… 154
　授業科目担当表 …… 158
　文学研究科履修モデル …… 164
博士後期課程
　履修方法について …… 169
　授業科目担当表 …… 172
研究指導計画の概要 …… 176
文学研究科　学位論文審査基準 …… 183
学位請求論文の提出について …… 186
　１．修士論文 …… 186
　２．博士論文 …… 198
　　Ⅰ．課程博士
　　Ⅱ．課程博士の学位請求論文提出期限及び
　　学位記授与に関する特例措置（在学生適用）
　　Ⅲ．論文博士
　３．学位論文に係る評価の基準 …… 201
専門社会調査士について …… 202
臨床心理士について …… 202
ＧＩＳ専門学術士について …… 202

研究科長挨拶

文学研究科　　研究科長　伊　藤　博　明

ー研究に絶好の場を提供ー

文学研究科は、日本語日本文学・英語英米文学・哲学・歴史学・地理学・社会学・心理学の７専攻からなっており、いずれも、修士課程から博士後期課程まで完備しています。詳細はそれぞれの専攻の説明を見ていただきたいと思いますが、本研究科は下記のような専攻によって構成されています。

日本語日本文学専攻では、日本語論を歴史的研究および現代語研究の観点等から扱い、また、古代から近現代に至る文学・文化の研究が可能で、海外から多くの学生を受け入れています。

英語英米文学専攻では、英米文学、英語学、英米研究、応用言語学の研究が可能で、海外の提携大学への留学制度もあります。

哲学専攻では、ギリシャ哲学から近代ドイツ・フランス哲学はもとより、現代の倫理学・論理学・芸術学や日本思想をも視野に含めています。

歴史学専攻では、世界史的な観点から歴史研究を志し豊富な教授陣を揃えているだけでなく、他大学の10大学院と単位互換協定を結び、広く研究の機会を提供しています。

地理学専攻では、いわゆる自然地理学のみならず、歴史地理学・人文地理学も視野に入れ、さらに環境論などの研究にも注目しています。他大学の５大学院と単位互換協定を結びました。

社会学専攻では、社会学理論・現代文化論・コミュニケーション論・都市社会学・エリアスタディーズ・労働社会学・社会福祉論・家族論など幅広い分野の研究が行われています。他大学の21大学院と単位互換制度を設け、研究の場を広げています。

心理学専攻は、臨床心理学の研究に力を注ぎ、多くの臨床心理の専門家を輩出しています。また、実験心理学・社会心理学の分野の研究も盛んに行われています。それだけに他大学から優秀な学生が来ています。

このように、文学研究科は、研究者を目指す諸君だけでなく、留学生や社会人も含めて、さらに研究を深めることを目的とした方々にとって絶好の場を提供しています。研究のための重要な本学図書館は施設・蔵書数ともに非常に充実しています。

令和６（2024）年度　専修大学大学院（文学研究科）学事暦

前　期　　４月１日（月）～ ９月20日（金）

４月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

オリエンテーション・ガイダンス
４月 １日（月）～ ４月 ９日（火）
入　学　式　４月 ５日（金）
前　期　授　業　４月10日（水）～ ８月 ３日（土）
履修届提出期限　４月17日（水）
特例措置による課程博士論文提出期限　４月27日（土）
※４月 29日（月）は授業を実施する。
※５月 １日（水）は、４月29日（月）の振替休日とする。
※５月 ２日（木）は、５月 ６日（月）の振替休日とする。
※５月 ６日（月）は授業を実施する。

５月

日	月	火	水	木	金	土
			①	②	③	④
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

６月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

課程博士論文題目届提出期限　６月28日（金）

７月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※ ７月15日（月）は授業を実施する。
補講期間（前期）　７月29日（月）～ ８月 ３日（土）

８月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

夏　期　休　暇　８月 ４日（日）～ ９月20日（金）

後　期　　９月21日（土）～ ３月31日（月）

９月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	⑯	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

大学創立記念日　９月16日（月）
後　期　授　業　９月21日（土）～ 12月25日（水）
１月 ６日（月）～ １月29日（水）
※９月23日（月）は授業を実施する。
特例措置による課程博士学位記授与　９月下旬
課程博士論文提出期限　９月30日（月）
修士論文題目届提出期限　10月11日（金）
※ 10月14日（月）は授業を実施する。
※ 10月29日（火）は、７月15日（月）の振替休日とする。
※大学記念日（休日）　10月30日（水）

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	㉙	㉚	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	④	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

※ 11月23日（土）は授業を実施する。

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	㉔	㉕	26	27	28
29	30	31				

※ 12月24日（火）は、９月23日（月）の振替休日とする。
※ 12月25日（水）は、10月14日（月）の振替休日とする。
冬　期　休　暇　12月26日（木）～ １月 ５日（日）
修士論文提出期限　１月 ８日（水）
※ １月18日（土）は、11月23日（土）の振替休日とする。
補講期間（後期）　１月23日（木）～ １月29日（水）
春　期　休　暇　１月30日（木）～ ３月31日（月）

１月

日	月	火	水	木	金	土
			①	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	⑬	14	15	16	17	⑱
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

２月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	⑪	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	㉔	25	26	27	28	

３月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	⑳	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

学位記授与式　３月22日（土）

○変更がある場合は掲示でお知らせします。

文学研究科の目的

文学研究科は、創造性豊かな研究能力及び開発能力を有するとともに、多様な分野の研究機関及び教育機関の中核を担う研究者、優れた研究能力及び教育能力を兼ね備えた大学教員、高度の専門知識及び能力を身に付けた高度専門職業人並びに知識基盤社会を多様に支える知的で深い教養のある人材を養成することを目的とする。

文学研究科各専攻の目的

日本語日本文学専攻	日本語学および日本文学文化の諸分野を専門とする教授陣が学生の多様な要望に応え、研究指導にあたっている。
英語英米文学専攻	英文学では、詩、演劇、小説、文学理論の各ジャンルに科目が置かれ、アメリカ文学では19世紀から21世紀にいたるまでの文学を扱っている。英米研究には、イギリスとアメリカ双方の文化研究に関する科目が置かれている。英語学の科目は、古期・中期英語、言語理論、音声学と多岐にわたっている。また、応用言語学の分野では、日英コミュニケーション論、英語教育学、教員養成に関する科目を展開している。これらの各分野にわたって優れた教授陣をおき、学生の要望に応えている。
哲学専攻	哲学専攻は、古代ギリシャ、中世ラテン哲学、英米独仏近現代哲学、日本精神史、論理学、倫理学、科学思想、芸術論、宗教論、人間論などにかんする高度な研究教育能力をもって、産業界や行政などにおける研究・教育機関を担う研究者、大学の哲学教員、ならびに、上記にかんする専門知識と能力を活かした高度専門職業人、知識基礎社会を支える多様な人材の養成を行うことを目的とする。
歴史学専攻	歴史学専攻は大きく日本史・東洋史・西洋史・アジア考古学の4領域に分かれているが、アメリカ史、国際関係史、イスラム史、さらにフランス革命史、女性史等の、特殊講義を設置して広い視野で歴史を総合的に把握できるカリキュラムを用意し学生の要望に応えている。
地理学専攻	地理学専攻では、人文地理学・自然地理学・地誌学に関する専門教育を授け、フィールドワークおよび資料分析の双方の調和の取れた研究を通じて、地域や環境に関する学術的課題を実証的に解明していく能力を育成することを目的とする。
社会学専攻	社会学専攻では、グローバルな視野を持って現代社会の構造を総合的・体系的に考究する社会学各専門領域の研究者、高度な専門的知識を身につけた職業人の養成を目指してカリキュラムを編成している。さらに、首都圏22の大学院からなる社会学関連単位互換制度に加盟していて、より広い視野にたった研究が進められるようになっている。また、「社会調査協会」が定めた「専門社会調査士」の資格を取得することも出来るようになっている。
心理学専攻	(1) 修士課程と博士後期課程を経て、大学などの高等教育機関で専門研究者となるものを養成することと、(2) 修士課程を経て、臨床心理学の領域における資格取得を目指すものが、実務・応用に耐えうる深化した基礎知識と技術を涵養することを目的とする。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本語日本文学専攻	**修士課程** 日本語日本文学専攻は、修士課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に修士(文学)の学位を授与します。 （1）日本語、日本文学・文化について深い知識と理解力を身につけていること。 （2）日本語、日本文学・文化に関する十分な知識に基づく論理的思考力を身につけていること。 （3）日本語、日本文学・文化研究の領域における優れた研究能力・論文作成能力を身につけていること。 **博士後期課程** 日本語日本文学専攻は、博士後期課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に博士(文学)の学位を授与します。 （1）日本語、日本文学・文化について深い知識と理解力を身につけていること。 （2）日本語、日本文学・文化に関する十分な知識に基づく論理的思考力を身につけていること。 （3）日本語、日本文学・文化研究の領域における優れた研究能力・論文作成能力を身につけていること。 （4）高度な専門知識に基づく独創的研究成果を生み出す能力を身につけていること。
英語英米文学専攻	**修士課程** 英語英米文学専攻は、修士課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に修士（文学）の学位を授与します。 （1）広く国際的な視野を持ち、英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学のいずれかの専門分野を中心としつつ、関連領域も含めた幅広い学識と理解力を身につけていること。 （2）十分な英語運用能力に基づきながら英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学のいずれかの専門分野における問題発見能力、分析能力、論理的思考力を身につけていること。 （3）十分な英語運用能力に基づきながら英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学のいずれかの専門分野における優れた研究能力及び論文作成能力を身につけていること。 **博士後期課程** 英語英米文学専攻は、博士後期課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に博士（文学）の学位を授与します。 （1）広く国際的な研究・社会の現状を踏まえながら、英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学のいずれかの専門分野に関する高度な専門的学識と理解力を身につけていること。 （2）卓越した英語運用能力に基づき、英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学のいずれかの専門分野における高度な問題発見能力、分析能力、論理的思考力を身につけていること。 （3）卓越した英語運用能力に基づき、英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学のいずれかの専門分野における極めて優れた研究能力及び論文作成能力を身につけていること。

哲　学　専　攻	**修士課程** 哲学専攻は、修士課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に修士（哲学）の学位を授与します。 （1）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの専門分野に関する体系的な知識と理解力を身につけていること。 （2）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学など、各専門に応じた語学力、研究・論文作成能力を備えていること。 （3）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの諸側面についての問題発見能力を身につけていること。 （4）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの諸問題についての論理的思考ができる能力・解決能力を身につけていること。 （5）アカデミックな吟味に耐えうる説得力のある議論を展開する能力を備えていること。 **博士後期課程** 哲学専攻は、博士後期課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に博士（哲学）の学位を授与します。 （1）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの専門分野に関する体系的な知識と卓越した理解力を身につけていること。 （2）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学など、各専門に応じ、卓越した語学力、研究・論文作成能力を備えていること。 （3）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの諸側面についての独創的な問題発見能力を身につけていること。 （4）哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの諸問題についての独創的な思考ができる能力・解決能力を身につけていること。 （5）学術的に国際的研究水準に達する独創的で新たな知見を含み、学会の発展に寄与する高度な研究成果を伴う博士論文を執筆する能力を備えていること。
歴　史　学　専　攻	**修士課程** 歴史学専攻は、修士課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に修士（歴史学）の学位を授与します。 （1）日本及び世界各地域における歴史について、幅広い学識と理解力を身につけていること。 （2）（1）についての従来の研究成果を批判的に検討して研究テーマを設定し、そのための史料収集と批判を行う能力を身につけていること。 （3）論理的な洞察力をもって諸事象を体系的に把握する能力を有していること。 （4）（1）（2）（3）を踏まえて論文を作成し、発表する能力を身につけていること。 **博士後期課程** 歴史学専攻は、博士後期課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に博士（歴史学）の学位を授与します。 （1）日本及び世界各地域における歴史について、幅広い学識と理解力を身につけ、歴史的事象を正確に捉える能力を有していること。 （2）（1）についての従来の研究成果を批判的に検討して研究テーマを設定し、そのための史料収集と批判を行うことで新たな歴史像を提起できる能力を身につけていること。 （3）論理的な洞察力をもって諸社会を体系的に把握する能力を有していること。 （4）（1）（2）（3）を踏まえて論文を作成し、発表する能力を身につけていること。

地　理　学　専　攻	**修士課程** 　地理学専攻は、修士課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に修士（地理学）の学位を授与します。 （1）地理学に関する学識を身につけていること。 （2）フィールドワークや空間分析に関する能力を身につけていること。 （3）地域や環境をめぐる課題を対象とした実証的な研究を行い、その成果を修士論文にまとめる能力を有していること。 **博士後期課程** 　地理学専攻は、博士後期課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に博士（地理学）の学位を授与します。 （1）地理学に関する深い学識を身につけていること。 （2）フィールドワークや空間分析に対する高度な能力を身につけ、独創的な研究に応用できること。 （3）学術的に新たな知見が認められ、地理学の発表に寄与する成果を含む論文を作成する能力を身につけていること。
社　会　学　専　攻	**修士課程** 　社会学専攻は、修士課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に修士（社会学）の学位を授与します。 （1）グローバルな視野を持って現代社会の構造を総合的・体系的に考究できる学識と理解力を身につけていること （2）現実的でリアリティのあるテーマを発掘し、実証研究と結びつく高度な調査・分析能力を身につけていること （3）社会学の各専門領域における理論と実証を総合的に身につけ、高度な専門性を有する修士論文を作成する能力を身につけていること **博士後期課程** 　社会学専攻は、博士後期課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に博士（社会学）の学位を授与します。 （1）グローバルな視野を持って現代社会の構造を総合的・体系的に考究できる学識と理解力を身につけていること （2）社会学の各専門領域における理論と実証をより高度に身につけ、独創的な研究に応用できる能力を身につけていること （3）学術的に新たな知見が認められ、社会学の発展に寄与する研究成果を含む博士論文を作成する能力を身につけていること

心　理　学　専　攻	**修士課程** 　心理学専攻は、修士課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に修士（心理学）の学位を授与します。 （1）心理学に関する学識と理解力 （2）心理学における研究能力及び論文作成能力 （3）心理学についての問題発見及び解決能力 （4）心理学に関わる諸問題について論理的思考ができる能力 **博士後期課程** 　心理学専攻は、博士後期課程において以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限在学し、所定の単位を修得し、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に博士（心理学）の学位を授与します。 （1）心理学に関する深い学識と理解力 （2）心理学における優れた研究能力及び論文作成能力 （3）心理学についての優れた問題発見及び解決能力 （4）心理学に関わる諸問題について論理的思考ができる能力 （5）心理学に関する高度な専門知識に基づき、独創的な研究成果を生み出す能力

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

日本語日本文学専攻	**修士課程** 日本語日本文学専攻は、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成/教育内容・方法】 （1）作品や資料を専門的に分析する研究手法を身につけるための「特講」を開設します。 （2）より高度な専門知識や研究手法を体系的に学ぶ機会を提供する「特講演習」を開設します。 （3）個々の学生の課題に応じた修士論文指導を行ないます。 【学修成果の評価方法】 （1）成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた到達目標、ルーブリック等による成績評価方法・基準を目安として採点します。 （2）修士課程の学位論文審査体制を充実させるべく、主査・副査、複数の査読者による厳格な審査を行います。主査・副査・複数の査読者による厳格な審査は、以下の項目について審査を行います。 ①テーマの設定における問題意識の明確性や、自身の研究内容に合致していること。 ②当該専門分野における基本的知識を基にした内容であること。 ③資料・データが適切に収集・処理され、参考文献・参考資料等の引用が適切に行われていること。 ④論旨が一貫しており、明確に結論が出されていること。 ⑤結論において、独自の知見が加えられ、研究を遂行する基礎的能力を示すものであること。 ⑥資料・データに改ざん等の不正な取り扱いが無いこと。 **博士後期課程** 日本語日本文学専攻は、本専攻が定める博士後期課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成/教育内容・方法】 （1）作品や資料を専門的に分析する研究手法を身につけるための「特殊研究」を開設します。 （2）より高度な専門知識や研究手法を体系的に学ぶ機会を提供する「特殊研究演習」を開設します。 （3）個々の学生の課題に応じた博士論文指導を行ないます。 【学修成果の評価方法】 （1）成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた到達目標、ルーブリック等による成績評価方法・基準を目安として採点します。 （2）博士課程の学位論文審査体制を充実させるべく、主査・副査、複数の査読者による厳格な審査を行います。主査・副査・複数の査読者による厳格な審査は、以下の項目について審査を行います。 ①テーマの設定における問題意識の明確性や、自身の研究内容に合致していること。 ②当該専門分野における基本的知識を基にした内容であること。 ③資料・データが適切に収集・処理され、参考文献・参考資料等の引用が適切に行われていること。 ④論旨が一貫しており、明確に結論が出されていること。 ⑤結論において、独自の知見が加えられ、研究を遂行する基礎的能力を示すものであること。 ⑥資料・データに改ざん等の不正な取り扱いが無いこと。

英語英米文学専攻	**修士課程** 英語英米文学専攻は、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成/教育内容・方法】 英語英米文学専攻のカリキュラムは英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学の５つの分野に分かれています。この分類に基づき、専門分野を中心としつつ関連領域を含めた知識を幅広く体系的に修得できるように編成されています。専門分野に関する講義と演習を通して、問題発見能力、分析能力、論理的思考力、論文作成能力を修得し、研究成果の集大成として修士論文を完成することができるようきめ細かく指導します。 【学修成果の評価方法】 （1）講義科目の評価：専門分野における知識の修得とその理解力を口頭発表とレポート作成を通して評価します。 （2）演習科目の評価：修得した知識から研究課題を設定する力、また、研究遂行に必要な問題発見能力、分析能力、論理的思考力をレポートによって評価します。 （3）学位請求論文の評価： 審査の公平性および透明性を担保するために、通常副査は学内から２名、主査を含めて計３名の審査委員が修士論文を読み口頭試問を行います。審査委員は、質問に対する返答の内容を考慮し総合的な論文作成能力を評価します。 **博士後期課程** 英語英米文学専攻は、本専攻が定める博士後期課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成/教育内容・方法】 英語英米文学専攻のカリキュラムは英文学、米文学、英米研究、英語学、応用言語学の５つの分野に分かれています。専門分野に関する高度な専門性を有する講義と演習を通して、指導教授の助言や指導のもと、高度な問題発見能力、分析能力、論理的思考力、論文作成能力を磨いていきます。その上で、自らの研究成果の集大成として独創性に富み専門分野に貢献できるような博士論文を完成させることができる能力を育成します。 【学修成果の評価方法】 （1）授業科目の評価：専門分野における学術研究の高度な内容把握力を、口頭発表とレポート作成を通して評価します。 （2）博士請求論文の評価： 審査の公平性および透明性を担保するために、通常副査は学内から１名、学外から１名以上で、主査を含めて計３名以上の審査委員が博士論文を読み口頭試問を行います。審査委員は、質問に対する返答の内容を考慮し総合的な論文作成能力を評価します。

哲　学　専　攻	**修士課程** 哲学専攻は、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）授業科目の展開、体系的な編成等：哲学専攻修士課程のカリキュラムは、「古代・中世哲学」「近代・現代哲学」「哲学方法論」「実践哲学」「日本精神史」「美学」の科目群からなり、関心に応じて幅広く哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの知識と思考能力を修得できるようにしています。 （2）学位請求論文作成にあたっての指導内容、指導体制、中間論文発表会等：論文のテーマやテクスト設定、研究の進め方、論文の構想、執筆などに関して、指導教員、また複数の専任教員のゼミナールによって指導がなされます。その中間成果については、専修大学哲学会における定例の発表会を通じて、発表や討論の技能を磨くとともに、研究の方向や進展に関する助言を得ることができます。専攻科目の講義と演習の組み合わせによる専門知識や技術の修得と、関連分野の体系的な履修を通して、修士課程に必要かつ十分な知識を修得することができます。 【学修成果の評価方法】 （1）授業科目の評価：各特講、特講演習においては、テクストや議論の理解、語学力、参加の度合い、その都度のレポートなどによって評価します。 （2）研究指導の評価：論文執筆の対象分野などに関する一般的な理解、テクストや議論の理解・読解力、思考の一貫性、論述の明晰性などによって評価します。 （3）学位請求論文の評価：論文のテーマに関する先行研究の把握、問題設定の適切さ、首尾一貫性に関して、主査と二人の副査によって評価します。 **博士後期課程** 哲学専攻は、本専攻が定める博士後期課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）授業科目の展開、体系的な編成等：哲学専攻博士課程のカリキュラムは、「古代・中世哲学」「近代・現代哲学」「哲学方法論」「実践哲学」「日本精神史」「美学」の科目群からなり、関心に応じて幅広く哲学・倫理学・論理学・日本思想史・美学などの知識と思考能力を習得できるようにしています。 （2）学位請求論文作成にあたっての指導内容、指導体制、中間論文発表会等：論文のテーマやテクスト設定、研究の進め方、論文の構想、執筆などに関して、指導教員、また複数の専任教員のゼミナールによって、国際的研究水準に達し、独創的な論文を作成できるよう、指導がなされます。その中間成果については、専修大学哲学会における定例の発表会を通じて、発表や討論の技能を磨くとともに、研究の方向や進展に関する助言を得ることができます。専修大学哲学会会誌『生田哲学』などへの原著論文の投稿によって業績を積み重ねることができます。 【学修成果の評価方法】 （1）授業科目の評価：各特講、特講演習においては、テクストや議論の理解、語学力、参加の度合い、その都度のレポートなどによって評価します。 （2）研究指導の評価：論文執筆の対象分野などに関する一般的な理解、テクストや議論の理解・読解力、思考の一貫性、論述の明晰性などによって評価します。 （3）学位請求論文の評価：論文のテーマに関する先行研究の把握、問題設定の適切さ、首尾一貫性、国際的研究水準に照らした独創性に関して、主査と、専修大学外の審査員を含む、３名の副査によって評価します。

歴　史　学　専　攻	**修士課程** 　歴史学専攻は、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 　【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）歴史学専攻は、「日本史」「アジア史」「ヨーロッパ／アメリカ史」「アジア考古学」の４領域にわたる科目群と「国際関係史」「イスラーム史」「フランス革命史」「ジェンダー史」の諸領域に関わる科目群を設置し、広い視野から歴史を総合的に把握できるカリキュラムを編成しています。 （2）歴史学研究に必要な実証と理論に関する専門知識および技能の修得と世界史的な視野をもつ歴史認識の養成を目的に講義と演習を開講しています。また、学位請求論文の作成にあたっては、複数の教員が指導を行い、適宜報告の機会を設定しています。 　【学修成果の評価方法】 （1）授業科目の評価については、適宜論文作成のためのレポートの作成・提出を課しています。 （2）研究指導の評価にあたっては、複数の教員による検討の機会を設定しています。 （3）学位請求論文の評価にあたっては、必ず主査１名・副査２名の計３名の教員による評価を行っています。 **博士後期課程** 　歴史学専攻は、本専攻が定める博士後期課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 　【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）「日本史」「アジア史」「ヨーロッパ／アメリカ史」「東アジア考古学」の諸分野に関して高度の専門性を有する講義と演習を体系的に編成し、かつ地域と時代の異なる分野を学べるような編成を心掛けています。 （2）学位請求論文の作成にあたっては、複数の教員が指導を行い、適宜中間発表会等を開催しています。 　【学修成果の評価方法】 （1）授業科目の評価については、適宜論文作成のための予備的レポートの作成・提出を課し、さらに学内外の学会・研究会における口頭発表や学術雑誌の投稿のための支援を行い、評価の対象としています。 （2）研究指導の評価にあたっては、複数の教員による検討の機会を設定しています。 （3）学位請求論文の評価にあたっては、必ず主査１名・副査２名以上の教員による評価を行い、学外者を含めた公開審査会を設定しています。

地　理　学　専　攻	**修士課程** 　地理学専攻は、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 　地理学専攻では、人文地理学、自然地理学、地誌学の各分野を対象とした科目及びフィールドワークや空間分析等を中心とした研究法に関する科目を偏りなく設置し、地理学の専門家として現代の課題の解決に貢献できる人材の育成にふさわしい教育体制を確立します。また、公益社団法人日本地理学会が認定する専門地域調査士及びGIS 専門学術士資格の取得を可能とします。 【学修成果の評価方法】 　地理学専攻では、学修成果の評価方法として、次の方法を採っています。 （1）口頭試問とは別に、学生は数頁のレジュメを作成し、パワーポイントを用いて、論文発表会を全専任教員の出席のもとで行い、出席教員が指導・助言します。修士 1 年次学生は中間発表年 1 回（10 月）、修士 2 年次学生は中間発表年 2 回（6 月、10 月）、最終発表年 1 回（1 月）を、それぞれ行います。 （2）中間発表と最終発表時における出席教員による指導・助言（指摘、コメント）も踏まえ、査読者である指導教員と副査 2 人が、口頭試問において審査・評価を行います。 （3）修士論文提出年次以外の学生は、年度末に研究報告書を指導教員に提出します。研究報告書に対して、指導教員が指導・助言を行います。 **博士後期課程** 　地理学専攻は、本専攻が定める博士後期課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 　地理学専攻では、地理学分野の先端的な研究成果を含む高度に学術的な講義・演習を配置し、博士論文を作成する学生に対し、独創的な研究能力を育成します。 【学修成果の評価方法】 　地理学専攻では、学修成果の評価方法として、次の方法を採っています。 （1）口頭試問とは別に、学生は数頁のレジュメを作成し、パワーポイントを用いて、論文発表会を全専任教員の出席のもとで行い、出席教員が指導・助言します。博士後期課程 1 年次生は中間発表 1 回（10 月）、博士後期課程 2 年次生は中間発表年 2 回（6 月、10 月）、博士後期課程 3 年次生は中間発表年 2 回（6 月、10 月）、最終発表年 1 回（1 月）の発表を、それぞれ行います。 （2）中間発表と最終発表時における出席教員による指導・助言（指摘、コメント）も踏まえ、査読者である指導教員と副査 2 人が、口頭試問において審査・評価を行います。 （3）博士論文提出年次以外の学生は、年度末に研究報告書を指導教員に提出します。研究報告書に対して、指導教員が指導・助言を行います。

社会学専攻	**修士課程** 社会学専攻は、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）グローバルな視野を持って現代社会の構造を総合的・体系的に考究するために、広範な専門領域にわたる講義と演習を配置しています。これにより、各専門領域における理論と実証を重視することを基礎として、大学院生各自の現実的でリアリティのあるテーマ及び課題を、体系的に深くかつすそ野を広く追究することができます。 （2）大学院生各自の研究テーマがより実証的な研究と結びつく高度な調査・分析能力を身につけ、また、社会調査協会が定めた専門社会調査士の資格を取得するために、「社会調査実習」を配置しています。 （3）大学院生に対して一人の指導教員が指導するのではなく、社会学の様々な分野の全教員が集団的に指導する体制を採用しています。 （4）本学のカリキュラムにない専門領域の知識を身につけるために、首都圏の加盟大学の社会学系大学院と連携して「単位互換制度」を設けています。 【学修成果の評価方法】 （1）授業科目については、各授業科目のシラバスに記載されている方法で、授業担当教員が評価します。 （2）研究指導については、「研究指導計画の概要」で定める報告機会において全分野の教員に研究の進捗状況を発表し、教員の評価と助言を受けます。 （3）学位請求の修士論文の評価は、全分野の教員の出席の審査及び最終試験のもとに、ディプロマ・ポリシーの基準に基づいて評価します。 **博士後期課程** 社会学専攻は、本専攻が定める博士後期課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）博士学位取得に必要な研究を遂行できるように、指導教員が論文指導の特殊研究演習を行います。 （2）あわせて、社会学の各専門領域における高度な専門性を身につけるために、理論と実証の関連を重視した高度な講義と演習を配置しています。 （3）学内外の様々な研究発表の機会に成果を発表し、博士論文に向けた研究を着実に積み上げます。 （4）大学院生に対して一人の指導教員が指導するのではなく、社会学の様々な分野の全教員が集団的に指導する体制を採用しています。 【学修成果の評価方法】 （1）授業科目については、各授業科目のシラバスに記載されている方法で、授業担当教員が評価します。 （2）研究指導については、「研究指導計画の概要」で定める報告機会において、全分野の教員に研究の進捗状況を発表し、教員の評価と助言を受けます。 （3）学位請求の博士論文の評価は、全分野の教員の出席の審査及び最終試験のもとに、ディプロマ・ポリシーの基準に基づいて評価します。

心理学専攻	**修士課程** 心理学専攻では、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）心理学研究の方法論に基づいた問題解決能力を持ち、その能力を様々な分野で応用できる人材を育成するための科目を編成します。 （2）臨床心理学の領域における資格取得を目指す者が、実務・応用に耐えうる知識と技能を涵養するための科目を編成します。 （3）心理学における諸領域、すなわち、基礎・社会・発達・臨床の各領域に偏りなく専門家を配置し、大学院生の様々な志向に応じた少人数教育・双方向的な指導を行います （4）修士論文の執筆のために論文指導をおくとともに中間発表会・ポスター発表会・口頭試問を実施し、きめ細やかな指導・教育を行います。 【学修成果の評価方法】 （1）各科目の評価：シラバスに記載されている方法で、授業担当教員が到達目標に応じて多面的に評価します。 （2）学位請求論文の評価：口述試験を実施し、学位請求者が論理的思考力・問題解決力・専門的知識・学術研究上の倫理性を有しているかに関して、主査１名と副査２名が多面的に評価します。 **博士後期課程** 心理学専攻では、本専攻が定める博士後期課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。 【教育課程の編成／教育内容・方法】 （1）心理学研究の方法論に基づいた問題解決能力を持ち、その能力を高等研究教育機関で専門研究者として発揮できる人材を育成するための科目を編成します。 （2）臨床心理学の実務・応用において指導的な役割を担う人材を育成するための深化した知識と技能を涵養するための科目を編成します。 （3）心理学における諸領域、すなわち、基礎・社会・発達・臨床の各領域に偏りなく専門家を配置し、大学院生の様々な志向に応じた少人数教育・双方向的な指導を行います。 （4）博士論文の執筆のために研究論文指導をおくとともに院生研究会・口頭試問を実施し、きめ細やかな指導・教育を行います。 【学修成果の評価方法】 （1）各科目の評価：シラバスに記載されている方法で、授業担当教員が到達目標に応じて多面的に評価します。 （2）学位請求論文の評価：口述試験、あるいは公聴会を実施し、その論文が当該分野においてもつ学術的意義や独創性、並びに学位請求者が論理的思考力・問題解決力・専門的知識・学術研究上の倫理性を有しているかに関して、主査１名と副査２名が多面的に評価します。

履修方法について（令和５年度以降入学者）

１．修士課程の標準修業年限は２年です。修得すべき単位は30単位で、かつ、必要な研究指導を必ず受けてください。

	必　修　科　目（12単位）	選択科目	合　計
１　年	指導教員の「講義」４単位・「演習」（又は「論文指導」）４単位	18単位以上	30単位以上
２　年	指導教員の　「演習」（又は「論文指導」）４単位		

①　１年次及び２年次において、必修科目として指導教員の講義４単位・演習（又は「論文指導」）８単位、計12単位を履修してください。また、１年次から２年次の間において、選択科目として18単位以上を履修してください。

②　日本語日本文学専攻日本語プロフェッショナルコースは、選択科目として「実践的日本語研究Ⅰ（ベーシック）」２単位および「実践的日本語研究Ⅱ（アドバンスト）」２単位、計４単位を含めて履修してください。

③　地理学専攻は、指導教員の地域研究法が必修のため、必修科目16単位、選択科目14単位以上の履修となります。

④　心理学専攻では、実習等のやむを得ない事情がある場合は、必修科目である指導教員の講義４単位を、１年次に１科目２単位、２年次に１科目（１年次に履修していない科目に限る）２単位とに分割して履修することができます。

２．①　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院の他の研究科及び他の専攻で開講されている授業科目を履修することができます。この場合に認定することができる単位は合計10単位以内とします。

②　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院と協定を締結した他の大学院（単位互換協定校）で開講する授業科目等（特別の課程「履修証明プログラム」を含む）を、15単位を超えない範囲で本研究科において修得したものとみなすことができます。

③　本研究科が定める学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に照らし、教育上有益であり、本研究科の教育課程に即したものであると認められ、指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本研究科に入学する前に本大学院又は他の大学院において修得した単位（特別の課程「履修証明プログラム」を含む）を、15単位を超えない範囲で、本研究科において修得したものとみなすことができます。

④　上記②および③項の規定により、本研究科において修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて20単位を超えないものとします。

申請方法等については、大学院事務課に問い合わせてください。

⑤　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、大学院文学研究科担当教員が担当する（注）本学学部の授業科目（原則として専門科目に限る）を10単位以内で履修することができます。この場合の単位は、修了要件単位には含みません。

（注）地域調査士、ＧＩＳ学術士、社会調査士の資格関連授業科目の履修に際しては、大学院文学研究科担当教員の担当科目でなくても履修を認めます。

3．修士論文の作成にあたっては、指導教員の研究指導が必要です。従って、所定の単位を修得して修士論文作成のために在学する者は、必ず指導教員の演習（又は「論文指導」）を履修してください。

履修方法について（令和４年度入学者）

１．修士課程の標準修業年限は２年です。修得すべき単位は30単位で、かつ、必要な研究指導を必ず受けてください。

	必　修　科　目（12単位）	選択科目	合　計
１　年	指導教員の「講義」４単位・「演習」（又は「論文指導」）４単位	18単位以上	30単位以上
２　年	指導教員の　「演習」（又は「論文指導」）４単位		

①　１年次及び２年次において、必修科目として指導教員の講義４単位・演習（又は「論文指導」）８単位、計12単位を履修してください。また、１年次から２年次の間において、選択科目として18単位以上を履修してください。

②　地理学専攻は、指導教員の地域研究法が必修のため、必修科目16単位、選択科目14単位以上の履修となります。

③　心理学専攻では、実習等のやむを得ない事情がある場合は、必修科目である指導教員の講義４単位を、１年次に１科目２単位、２年次に１科目（１年次に履修していない科目に限る）２単位とに分割して履修することができます。

２．①　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院の他の研究科及び他の専攻で開講されている授業科目を履修することができます。この場合に認定することができる単位は合計10単位以内とします。

②　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院と協定を締結した他の大学院（単位互換協定校）で開講する授業科目を、15単位を超えない範囲で本研究科において修得したものとみなすことができます。

③　本研究科が定める学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に照らし、教育上有益であり、本研究科の教育課程に即したものであると認められ、指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本研究科に入学する前に本大学院又は他の大学院において修得した単位を、15単位を超えない範囲で、本研究科において修得したものとみなすことができます。

④　上記②および③項の規定により、本研究科において修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて20単位を超えないものとします。

申請方法等については、大学院事務課に問い合わせてください。

⑤　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、大学院文学研究科担当教員が担当する(注)本学学部の授業科目（原則として専門科目に限る）を10単位以内で履修することができます。この場合の単位は、修了要件単位には含みません。

（注）地域調査士、ＧＩＳ学術士、社会調査士の資格関連授業科目の履修に際しては、大学院文学研究科担当教員の担当科目でなくても履修を認めます。

３．修士論文の作成にあたっては、指導教員の研究指導が必要です。従って、所定の単位を修得して修士論文作成のために在学する者は、必ず指導教員の演習（又は「論文指導」）を履修してください。

履修方法について（令和３年度以前入学者）

1．修士課程の標準修業年限は２年です。修得すべき単位は30単位で、かつ、必要な研究指導を必ず受けてください。

	必　修　科　目（12単位）	選択科目	合　計
1　年	指導教員の「講義」４単位・「演習」（又は「論文指導」）４単位	18単位以上	30単位以上
2　年	指導教員の　「演習」（又は「論文指導」）４単位		

①　１年次及び２年次において、必修科目として指導教員の講義４単位・演習（又は「論文指導」）８単位、計12単位を履修してください。また、１年次から２年次の間において、選択科目として18単位以上を履修してください。

②　地理学専攻は、指導教員の地域研究法が必修のため、必修科目16単位、選択科目14単位以上の履修となります。

③　心理学専攻では、実習等のやむを得ない事情がある場合は、必修科目である指導教員の講義４単位を、１年次に１科目２単位、２年次に１科目（１年次に履修していない科目に限る）２単位とに分割して履修することができます。

2．①　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院の他の研究科及び他の専攻もしくは単位互換協定校で開講されている授業科目を履修することができます。この場合の単位は、合計10単位以内で単位認定することができます。

②　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、大学院文学研究科担当教員が担当する(注)本学学部の授業科目（原則として専門科目に限る）を10単位以内で履修することができます。この場合の単位は、修了要件単位には含みません。

（注）地域調査士、ＧＩＳ学術士、社会調査士の資格関連授業科目の履修に際しては、大学院文学研究科担当教員の担当科目でなくても履修を認めます。

3．修士論文の作成にあたっては、指導教員の研究指導が必要です。従って、所定の単位を修得して修士論文作成のために在学する者は、必ず指導教員の演習（又は「論文指導」）を履修してください。

修　士　課　程

授業科目担当表

日本語日本文学専攻

科目	単位 講義	単位 演習	担当教員 職名	担当教員 氏名	備考
日本語学特講（日本語の文字・表記研究）	4	4	教授	斎藤達哉	
日本語学特講（社会言語学研究）	4	4	准教授	阿部貴人	
日本語学特講（日本語教育学・言語習得論研究）	4	4	教授	備前徹	
日本語学特講（日本語教育学・音声研究）	4	4	教授	王伸子	
日本語学特講（日本語情報処理）	4	4	教授	丸山岳彦	
日本語学特講（古代語文法研究）	4	4	教授	須田淳一	本年度休講
日本語学特講（日本語教育学・現代語文法研究）	4	4	教授	高橋雄一	
日本語学特講（言語運用能力）	4	4	教授	山下直	
実践的日本語研究Ⅰ（ベーシック）	2			斎藤、阿部、備前、王、丸山、高橋、山下	※1
実践的日本語研究Ⅱ（アドバンスト）	2			斎藤、阿部、備前、王、丸山、高橋、山下	※1
上代文学特講（上代文学・文化研究）	4	4	教授	大浦誠士	
中古文学特講（王朝文学・文化研究）	4	4	教授	今井上	
中世文学特講（中世文学・文化研究）	4	4	教授	蔦尾和宏	
近世文学特講（近世文学・文化研究）	4	4	准教授	丸井貴史	
近現代文学特講（近現代文学・文化研究）	4	4	教授	山口政幸	
近現代文学特講（近現代文学・文化研究）	4	4	准教授	鈴木愛理	
近現代文学特講（近現代文学・文化研究）	4	4	教授	米村みゆき	
近現代文学特講（近現代文学・創作）	4	4	教授	小林恭二	
近現代文学特講（出版・現代文化研究）	4	4	教授	川上隆志	※2
近現代文学特講（ジャーナリズム論）	4	4	教授	山田健太	※2
近現代文学特講（演劇研究）	4	4	教授	小山内伸	本年度休講
中国文学特講（中国文学研究）	4	4	教授	廣瀬玲子	
日本文化特講（出版・現代文化研究）	4	4	教授	川上隆志	※3
日本文化特講（ジャーナリズム研究）	4	4	教授	山田健太	※3
日本文化特講（演劇研究）	4	4	教授	小山内伸	本年度休講
特殊問題特論	2		教授	飯沼健子	

※1　日本語プロフェッショナルコースのみ履修可能
※2　令和5年度以前入学者のみ履修可能
※3　令和6年度入学者から履修可能

英語英米文学専攻

科目	単位 講義	単位 演習	担当教員 職名	担当教員 氏名	備考
英文学特講Ⅰ（詩・戯曲）	4	4	教授	道家英穂	
英文学特講Ⅰ（詩・戯曲）	4	4	教授	末廣幹	
英文学特講Ⅱ（小説・翻訳論）	4	4	教授	大久保譲	
英文学特講Ⅲ（現代イギリス文学）	4	4			本年度休講
英語学特講Ⅰ（古期・中期英語）	4	4	准教授	菊地翔太	
英語学特講Ⅱ（現代英語）	4	4			本年度休講
英語学特講Ⅲ（言語理論）	4	4			本年度休講
英語学特講Ⅲ（音声学）	4	4	教授	三浦弘	
英語学特講Ⅲ（心理言語学）	4	4	教授	岡部玲子	
米文学特講Ⅰ（19世紀アメリカ文学）	4	4			本年度休講
米文学特講Ⅱ（現代アメリカ文学）	4	4	教授	渡邉真理子	
米文学特講Ⅲ（近現代アメリカ文学）	4	4	教授	中垣恒太郎	
英米研究特講（アメリカ研究）	4	4	准教授	佐々木優	
英米研究特講（イギリス研究）	4	4	教授	石塚久郎	
応用言語学特講（英語教育学・英語表現論）	4	4	教授	上村妙子	
応用言語学特講（英語教育学・通訳論）	4	4	教授	田邉祐司	
応用言語学特講（英語教育学・言語テスト理論）	4	4	教授	片桐一彦	
応用言語学特講（英語教育学・第二言語習得論）	4	4	教授	ロンコープ, ピーター	
応用言語学特講（英語教育学・第二言語習得論）	4	4	教授	ギリズ, ヘイミッシュ	
英語学特殊問題研究（認知言語学）	2				本年度休講
英語学特殊問題研究（英語文献学）	2		兼任講師	唐澤一友	後期集中
特殊問題特論	2		教授	飯沼健子	

哲学専攻

科目	単位		担当教員		備考
	講義	演習	職名	氏名	
古代・中世哲学特講（古代ギリシア哲学）	4	4	教授	高橋雅人	
近代・現代哲学特講（近代ヨーロッパ哲学）	4	4	教授	伊藤博明	
近代・現代哲学特講（現代フランス哲学）	4	4	教授	宮崎裕助	
近代・現代哲学特講（現象学）	4	4	教授	貫成人	
哲学方法論特講（分析哲学・現代英米倫理学）	4	4	教授	佐藤岳詩	
哲学方法論特講（言語哲学・現代英米哲学）	4	4	教授	金子洋之	
実践哲学特講（フランス倫理学）	4	4	教授	檜垣立哉	
日本精神史特講（日本倫理思想史）	4	4	教授	出岡宏	
美学特講（芸術学）	4	4	准教授	島津京	
人間学基礎論特講（フランス現代思想）	4	4			本年度休講
教育学特講	4				本年度休講
特殊問題特論	2		教授	飯沼健子	

歴史学専攻

科目	単位		担当教員		備考
	講義	演習	職名	氏名	
史学理論・史学史特講	4	4			本年度休講
日本史特講Ⅰ（日本古代史）	4	4	教授	中林隆之	
日本史特講Ⅰ（日本古代史）	4	4	教授	田中禎昭	
日本史特講Ⅱ（日本中世史）	4	4	教授	湯浅治久	
日本史特講Ⅲ（日本近世史）	4	4	教授	西坂靖	
日本史特講Ⅳ（日本近代史）	4	4	教授	鬼嶋淳	
日本史特講Ⅳ（日本近代史）	4	4	教授	廣川和花	
日本史特講Ⅴ（日本現代史）	4		兼任講師	伊香俊哉	
日本史特講Ⅴ（国際関係史）	4	4	兼任講師	佐藤正広	
日本史特講Ⅵ（日本女性史）	4	4	兼任講師	伊集院葉子	
東洋史特講Ⅰ（中国古代史）	4	4	教授	飯尾秀幸	
東洋史特講Ⅱ（中国近代史）	4		兼任講師	田中比呂志	
東洋史特講Ⅲ（南アジア史）	4	4	教授	志賀美和子	
東洋史特講Ⅲ（西アジア史）	4		兼任講師	長谷部圭彦	
東洋史特講Ⅳ（朝鮮史）	4	4	教授	田中正敬	
西洋史特講Ⅰ（ヨーロッパ前近代史）	4	4	准教授	松本礼子	
西洋史特講Ⅱ（西洋近代史）	4		兼任講師	高林陽展	
西洋史特講Ⅲ（西洋近現代史）	4	4	教授	日暮美奈子	
西洋史特講Ⅳ（フランス革命史）	4		兼任講師	高橋暁生	
西洋史特講Ⅴ（アメリカ史）	4	4	教授	南修平	
アジア考古学特講Ⅰ（日本考古学）	4	4	准教授	小林孝秀	
アジア考古学特講Ⅰ（日本考古学）	4		兼任講師	小澤正人	
アジア考古学特講Ⅱ（東アジア考古学）	4	4	教授	高久健二	
特殊問題特論	2		教授	飯沼健子	

地理学専攻

科目	単位 講義	単位 演習	担当教員 職名	担当教員 氏名	備考
人文地理学特講Ⅰ（歴史地域論）	4	4	准教授	三河雅弘	
人文地理学特講Ⅱ（社会環境論）	4	4	教授	江崎雄治	
人文地理学特講Ⅲ（村落地域論）	4	4	教授	松尾容孝	
人文地理学特講Ⅳ（地域計画論）	4		兼任講師	有馬貴之	
人文地理学特講Ⅴ（経済立地論）	4		教授	長尾謙吉	
人文地理学特講Ⅵ（地域資源論）	4		兼任講師	中井達郎	
自然地理学特講Ⅰ（地域環境論）	4	4	教授	赤坂郁美	
自然地理学特講Ⅱ（地球環境論）	4	4	教授	苅谷愛彦	
自然地理学特講Ⅲ（自然地域論）	4	4	教授	高岡貞夫	
自然地理学特講Ⅳ（測地・地図論）	4	4	准教授	縫村崇行	
地域システム論特講Ⅰ（地理情報論）	4		兼任講師	中山大地	
地域システム論特講Ⅱ（都市地域論）	4	4			本年度休講
地域システム論特講Ⅲ（発展途上地域論）	4		兼任講師	熊谷圭知	
地域システム論特講Ⅳ（比較動態地誌論）	4	4	教授	山本充	本年度休講
地域研究法	4			赤坂、江崎 苅谷、高岡 松尾、縫村 三河	
特殊問題特論	2		教授	飯沼健子	

社会学専攻

科目	単位 講義	単位 演習	単位 実習	担当教員 職名	担当教員 氏名	備考
社会学特講Ⅰ（比較社会論）	4	4				本年度休講
社会学特講Ⅱ（社会環境論）	4	4		教授	大矢根淳	
社会学特講Ⅲ（地域社会学）	4	4		教授	鷺理恵子	
社会学特講Ⅳ（都市社会学）	4	4		教授	藤原法子	
社会学特講Ⅴ（産業・労働社会学）	4	4		准教授	勝俣達也	
社会学特講Ⅵ（社会福祉論）	4	4		准教授	駒崎道	
社会学特講Ⅶ（教育社会論）	4	4		教授	広瀬裕子	
社会学特講Ⅷ（職業・生活論）	4	4		教授	樋口博美	
社会学特講Ⅸ（コミュニケーション論）	4	4		教授	秋吉美都	
社会学特講Ⅹ（現代文化論）	4	4		准教授	後藤吉彦	
社会学特講Ⅺ（社会学思想史）	4	4				本年度休講
社会学特講Ⅻ（家族社会論）	4	4		教授	永野由紀子	
社会学特講XIII（介護・ケア論）	4	4		教授	馬場純子	
社会学特講XIV（現代社会論）	4	4		教授	金井雅之	
社会学特講XV（エリアスタディーズ）	4	4		教授	菱山宏輔	
社会学特講XVI（社会意識論）	4	4		教授	嶋根克己	
社会学特講XVII（生涯学習社会論）	4	4		教授	小峰直史	
社会調査実習Ⅰ（企画・設計）			2		秋吉、大矢根 勝俣、金井 後藤、駒崎 小峰、嶋根 鷺、永野 馬場、樋口 菱山、広瀬 藤原	
社会調査実習Ⅱ（多変量解析）			2		秋吉、金井	
社会調査実習Ⅲ（質的調査法）			2		大矢根、勝俣 後藤、駒崎 小峰、嶋根 鷺、馬場 樋口、菱山 広瀬、藤原	
特殊問題特論	2			教授	飯沼健子	

心理学専攻

科　　目	単　位			担当教員		備　考
	講義	論文指導	実習	職　名	氏　　名	
〈基礎心理学領域〉						
基礎心理学特講ⅠA（心理学史・心理学基礎論）	2			兼任講師	高 砂 美 樹	
基礎心理学特講ⅠB（心理学史・心理学基礎論）	2			兼任講師	高 砂 美 樹	本年度休講
基礎心理学特講ⅡA（認知）	2			教　授	大久保 街亜	本年度休講
基礎心理学特講ⅡB（認知）	2			教　授	大久保 街亜	本年度休講
基礎心理学特講ⅢA（知覚）	2			教　授	中 沢　　仁	
基礎心理学特講ⅢB（知覚）	2			教　授	中 沢　　仁	
基礎心理学特講ⅣA（行動）	2			教　授	澤　　幸 祐	
基礎心理学特講ⅣB（行動）	2			教　授	澤　　幸 祐	
基礎心理学特講ⅤA（生理）	2			教　授	石 金 浩 史	
基礎心理学特講ⅤB（生理）	2			教　授	石 金 浩 史	
基礎心理学特講ⅥA（情報）	2			教　授	小 杉 考 司	
基礎心理学特講ⅥB（情報）	2			教　授	小 杉 考 司	
論文指導		4			大久保、澤 中 沢、石 金 小 杉	
〈社会心理学領域〉						
社会心理学特講ⅠA（対人行動）	2			兼任講師	杉 森 伸 吉	前期集中
社会心理学特講ⅠB（対人行動）	2					本年度休講
社会心理学特講ⅡA（対人関係・集団力学）	2			教　授	下斗米　　淳	
社会心理学特講ⅡB（対人関係・集団力学）	2			教　授	下斗米　　淳	
論文指導		4		教　授	下斗米　　淳	
〈発達心理学領域〉						
発達心理学特講ⅠA（乳児期・幼児期）	2			准教授	池 田 彩 夏	
発達心理学特講ⅠB（乳児期・幼児期）	2			准教授	池 田 彩 夏	
発達心理学特講ⅡA（児童期・青年期）	2			兼任講師	平 林 秀 美	
発達心理学特講ⅡB（児童期・青年期）	2					本年度休講
論文指導		4		准教授	池 田 彩 夏	

科　　目	単　位			担当教員		備　考
	講義	論文指導	実習	職　名	氏　　名	
〈臨床心理学領域〉						
臨床心理学特講ⅠA（臨床心理学特論）	2			教　授	国里愛彦	
臨床心理学特講ⅠB（臨床心理学特論）	2			教　授	国里愛彦	
臨床心理学特講ⅡA（心理支援に関する理論と実践）	2			教　授	高田夏子	
臨床心理学特講ⅡB（心理療法）	2			教　授	高田夏子	
臨床心理学特講ⅢA（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2			准教授	加藤佑昌	
臨床心理学特講ⅢB（臨床心理査定）	2			准教授	加藤佑昌	
臨床心理学特講ⅣA（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2			准教授	松嶋祐子	
臨床心理学特講ⅣB（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2			准教授	松嶋祐子	
臨床心理学特講ⅤA（家族療法）	2			兼任講師	藪垣　将	前期集中
臨床心理学特講ⅤB（家族療法）	2			兼任講師	藪垣　将	本年度休講
臨床心理学特講ⅥA（臨床神経心理学）	2			教　授	岡村陽子	
臨床心理学特講ⅥB（臨床神経心理学）	2			教　授	岡村陽子	
臨床心理学特講ⅦA（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2			兼任講師	大嶋玲未	
臨床心理学特講ⅦB（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2					本年度休講
臨床心理学特講ⅧA（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2			兼任講師	松本有紀子	
臨床心理学特講ⅧB（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2					本年度休講
臨床心理学特講ⅨA（発達臨床心理学）	2			准教授	藤巻るり	
臨床心理学特講ⅨB（発達臨床心理学）	2			准教授	藤巻るり	
臨床心理学特講ⅩA（教育分野に関する理論と支援の展開）	2			兼任講師	菊島勝也	
臨床心理学特講ⅩB（教育分野に関する理論と支援の展開）	2			兼任講師	菊島勝也	本年度休講
臨床心理学特講ⅪA（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2			兼任講師	田中佑樹	
臨床心理学特講ⅪB（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2					本年度休講
臨床心理学特講ⅫA（心の健康教育に関する理論と実践）	2			兼任講師	江口　聡	
臨床心理学特講ⅫB（心の健康教育に関する理論と実践）	2			兼任講師	江口　聡	本年度休講
臨床心理学特講ⅫⅢA（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2			准教授	塚本　匡	
臨床心理学特講ⅫⅢB（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2			准教授	塚本　匡	
論文指導		4			国里、高田 加藤、松嶋 岡村、藤巻 塚本	

文学研究科

科　　目	単　位			担当教員		備　考
	講義	論文指導	実習	職　名	氏　　名	
〈臨床心理学領域〉						
臨床心理実習ＩＡ（心理実践実習１Ａ）			1		加藤、高澤	
臨床心理実習ＩＢ（心理実践実習１Ｂ）			1		加藤、石川	
臨床心理実習ⅡＡ			1		市川、高澤	
臨床心理実習ⅡＢ			1		市川、高澤	
心理実践実習２Ａ			1		岡村、高澤	
心理実践実習２Ｂ			1		高田、藤巻	
臨床心理基礎実習Ａ			1		松嶋、石川	
臨床心理基礎実習Ｂ			1		松嶋、石川	
特殊問題特論	2			教　授	飯沼健子	

文学研究科　履修モデル

以下に示す各専攻の履修モデルは、あくまで一つのモデルであり、このように履修しなければならないということではありません。履修に際しては指導教授とよく相談してください。

【日本語日本文学専攻】

（日本語学）

日本語研究

- 日本語学特講（日本語教育学・言語習得論研究）
- 日本語学特講（日本語教育学・音声研究）
- 日本語学特講（社会言語学研究）
- 日本語学特講（日本語情報処理）
- 日本語学特講（日本語教育学・現代語文法研究）
- 近現代文学特講（近現代文学・文化研究）

（日本文学）

中世文学・文化研究

- 中世文学特講（中世文学・文化研究）
- 中古文学特講（王朝文学・文化研究）
- 近世文学特講（近世文学・文化研究）
- 近現代文学特講（近現代文学・文化研究）
- 日本語学特講（日本語の文字・表記研究）
- 日本語学特講（古代語文法研究）

【英語英米文学専攻】

現代アメリカ文学

- 米文学特講Ⅱ（現代アメリカ文学）
- 米文学特講Ⅰ（19 世紀アメリカ文学）
- 英文学特講Ⅰ（詩・戯曲）
- 英米研究特講（アメリカ研究）
- 英米研究特講（イギリス研究）

音声学

- 英語学特講Ⅲ（音声学）
- 英語学特講Ⅲ（言語理論）
- 英語学特殊問題研究（英語文献学）
- 応用言語学特講（英語教育学・言語テスト理論）
- 応用言語学特講（英語教育学・第二言語習得論）

【哲学専攻】

現代フランス哲学

- 近代・現代哲学特講（現代フランス哲学）
- 古代・中世哲学特講（古代ギリシア哲学）
- 近代・現代哲学特講（近代ヨーロッパ哲学）
- 近代・現代哲学特講（現象学）
- 哲学方法論特講（言語哲学・現代英米哲学）
- 実践哲学特講（フランス倫理学）

近代日本哲学

- 日本精神史特講（日本倫理思想史）
- 近代・現代哲学特講（現代フランス哲学）
- 近代・現代哲学特講（現象学）
- 哲学方法論特講（分析哲学・現代英米倫理学）
- 哲学方法論特講（言語哲学・現代英米哲学）
- 実践哲学特講（フランス倫理学）

【歴史学専攻】

日本近代史

- 日本史特講Ⅳ（日本近代史）（複数展開）
- 日本史特講Ⅲ（日本近世史）
- 日本史特講Ⅴ（日本現代史）
- 東洋史特講Ⅱ（中国近代史）
- 西洋史特講Ⅲ（西洋近現代史）

アジア考古学

- アジア考古学特講Ⅰ（日本考古学）（複数展開）
- アジア考古学特講Ⅱ（東アジア考古学）
- 日本史特講Ⅰ（日本古代史）（複数展開）
- 東洋史特講Ⅰ（中国古代史）

【地理学専攻】

歴史地域論

人文地理学特講Ⅰ（歴史地域論）
人文地理学特講Ⅱ（社会環境論）
人文地理学特講Ⅲ（村落地域論）
人文地理学特講Ⅴ（経済立地論）
地域システム論特講Ⅱ（都市地域論）

地球環境論

自然地理学特講Ⅱ（地球環境論）
自然地理学特講Ⅰ（地域環境論）
自然地理学特講Ⅲ（自然地域論）
自然地理学特講Ⅳ（測地・地図論）
地域システム論特講Ⅰ（地理情報論）

【社会学専攻】

文化・システム系

- 社会学特講Ⅰ（比較社会論）
- 社会学特講Ⅶ（教育社会論）
- 社会学特講Ⅸ（コミュニケーション論）
- 社会学特講Ⅹ（現代文化論）
- 社会学特講ⅩⅣ（現代社会論）
- 社会学特講ⅩⅥ（社会意識論）
- 社会調査実習Ⅰ（企画・設計）
- 社会調査実習Ⅱ（多変量解析）
- 社会調査実習Ⅲ（質的調査法）

生活・福祉系

- 社会学特講Ⅴ（産業・労働社会学）
- 社会学特講Ⅵ（社会福祉論）
- 社会学特講Ⅷ（職業・生活論）
- 社会学特講ⅩⅡ（家族社会論）
- 社会学特講ⅩⅢ（福祉・ケア論）
- 社会学特講ⅩⅦ（生涯学習社会論）
- 社会調査実習Ⅰ（企画・設計）
- 社会調査実習Ⅱ（多変量解析）
- 社会調査実習Ⅲ（質的調査法）

地域・エリアスタディーズ系

- 社会学特講Ⅱ（社会環境論）
- 社会学特講Ⅲ（地域社会学）
- 社会学特講Ⅳ（都市社会学）
- 社会学特講ⅩⅤ（エリアスタディーズ）
- 社会調査実習Ⅰ（企画・設計）
- 社会調査実習Ⅱ（多変量解析）
- 社会調査実習Ⅲ（質的調査法）

【心理学専攻】

基礎・社会・発達領域

- 基礎心理学特講ⅠA・ⅠB（心理学史・心理学基礎論）
- 基礎心理学特講ⅢA・ⅢB（知覚）
- 基礎心理学特講ⅣA・ⅣB（行動）
- 社会心理学特講ⅡA・ⅡB（対人関係・集団力学）
- 発達心理学特講ⅠA・ⅠB（乳児期・幼児期）
- 発達心理学特講ⅡA・ⅡB（児童期・青年期）

臨床領域

- 基礎心理学特講ⅠA・ⅠB（心理学史・心理学基礎論）
- 発達心理学特講ⅠA・ⅠB（乳児期・幼児期）
- 臨床心理学特講ⅠA・ⅠB（臨床心理学特論）
- 臨床心理学特講ⅡA（心理支援に関する理論と実践）
- 臨床心理学特講ⅡB（心理療法）
- 臨床心理学特講ⅢA（心理アセスメントに関する理論と実践）
- 臨床心理学特講ⅢB（臨床心理査定）
- 臨床心理学特講ⅣA・ⅣB（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
- 臨床心理学特講ⅥA・ⅥB（臨床神経心理学）
- 臨床心理学特講ⅨA・ⅨB（発達臨床心理学）
- 臨床心理基礎実習A・B
- 心理実践実習２A・２B

履修方法について（令和５年度以降入学者）

1．博士後期課程の標準修業年限は３年です。修得すべき単位は16単位で、かつ、指導教員による研究指導を必ず受けてください。

	必　修　科　目（12単位）	選択科目	合　計
1　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位	4単位以上	16単位以上
2　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位		
3　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位		

①　1年次2年次及び3年次において、必修科目として指導教員の演習（又は「研究論文指導」）3科目計12単位を履修してください。また、1年次～3年次の間において、選択科目として4単位以上を履修してください。

②　選択科目は、指導教員の講義及び当該年度に開講されている講義及び演習（又は「研究論文指導」）とします。

2．①　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院の他の研究科及び他の専攻で開講されている授業科目を履修することができます。この場合に認定することができる単位は合計10単位以内とします。

②　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院と協定を締結した他の大学院（単位互換協定校）で開講する授業科目等（特別の課程「履修証明プログラム」を含む）を、15単位を超えない範囲で本研究科において修得したものとみなすことができます。

③　本研究科が定める学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に照らし、教育上有益であり、本研究科の教育課程に即したものであると認められ、指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本研究科に入学する前に本大学院又は他の大学院において修得した単位（特別の課程「履修証明プログラム」を含む）を、15単位を超えない範囲で、本研究科において修得したものとみなすことができます。

④　上記②および③項の規定により本研究科において修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて20単位を超えないものとします。

申請方法等については、大学院事務課にお問い合わせください。

3．博士後期課程に在学する者は、当該年度の研究状況について所定用紙により「研究報告書」を作成し、1月末日までに指導教員の承認印を得て大学院事務課に提出してください。

4．博士論文の作成にあたっては、指導教員の研究指導が必要です。従って、所定の単位を修得し博士論文作成のために在学する者は、必ず指導教員の演習（又は「研究論文指導」）を履修してください。

履修方法について（令和４年度入学者）

1．博士後期課程の標準修業年限は３年です。修得すべき単位は16単位で、かつ、指導教員による研究指導を必ず受けてください。

	必　修　科　目（12単位）	選択科目	合　計
1　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位	4単位以上	16単位以上
2　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位		
3　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位		

①　1年次2年次及び3年次において、必修科目として指導教員の演習（又は「研究論文指導」）3科目計12単位を履修してください。また、1年次～3年次の間において、選択科目として4単位以上を履修してください。

②　選択科目は、指導教員の講義及び当該年度に開講されている講義及び演習（又は「研究論文指導」）とします。

2．①　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院の他の研究科及び他の専攻で開講されている授業科目を履修することができます。この場合に認定することができる単位は合計10単位以内とします。

②　指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院と協定を締結した他の大学院（単位互換協定校）で開講する授業科目を、15単位を超えない範囲で本研究科において修得したものとみなすことができます。

③　本研究科が定める学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に照らし、教育上有益であり、本研究科の教育課程に即したものであると認められ、指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本研究科に入学する前に本大学院又は他の大学院において修得した単位を、15単位を超えない範囲で、本研究科において修得したものとみなすことができます。

④　上記②および③項の規定により本研究科において修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて20単位を超えないものとします。

申請方法等については、大学院事務課にお問い合わせください。

3．博士後期課程に在学する者は、当該年度の研究状況について所定用紙により「研究報告書」を作成し、1月末日までに指導教員の承認印を得て大学院事務課に提出してください。

4．博士論文の作成にあたっては、指導教員の研究指導が必要です。従って、所定の単位を修得し博士論文作成のために在学する者は、必ず指導教員の演習（又は「研究論文指導」）を履修してください。

履修方法について（令和３年度以前入学者）

1．博士後期課程の標準修業年限は３年です。修得すべき単位は16単位で、かつ、指導教員による研究指導を必ず受けてください。

	必　修　科　目（12単位）	選択科目	合　計
1　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位	4単位以上	16単位以上
2　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位		
3　年	指導教員の　「演習」（又は「研究論文指導」）4単位		

①　1年次2年次及び3年次において、必修科目として指導教員の演習（又は「研究論文指導」）3科目計12単位を履修してください。また、1年次～3年次の間において、選択科目として4単位以上を履修してください。

②　選択科目は、指導教員の講義及び当該年度に開講されている講義及び演習（又は「研究論文指導」）とします。

2．指導教員が研究上特に必要と認め、当該研究科委員会の承認を得た場合に限り、本大学院の他の研究科及び他の専攻の科目もしくは単位互換協定校で開講されている授業科目を履修することができます。この場合の単位は、合計10単位以内で単位認定することができます。

3．博士後期課程に在学する者は、当該年度の研究状況について所定用紙により「研究報告書」を作成し、1月末日までに指導教員の承認印を得て大学院事務課に提出してください。

4．博士論文の作成にあたっては、指導教員の研究指導が必要です。従って、所定の単位を修得し博士論文作成のために在学する者は、必ず指導教員の演習（又は「研究論文指導」）を履修してください。

博　士　後　期　課　程

授業科目担当表

日本語日本文学専攻

科　　目	単位		担当教員		備　考
	講義	演習	職名	氏名	
日本語学特殊研究（日本語教育学・言語習得論研究）	4	4	教授	備前　徹	
日本語学特殊研究（日本語教育学・音声研究）	4	4	教授	王　伸子	
日本語学特殊研究（日本語の文字・表記研究）	4	4	教授	斎藤達哉	
日本語学特殊研究（日本語教育学・現代語文法研究）	4	4	教授	高橋雄一	
日本語学特殊研究（社会言語学研究）	4	4	准教授	阿部貴人	
日本語学特殊研究（日本語情報処理）	4	4	教授	丸山岳彦	
上代文学特殊研究（上代文学・文化研究）	4	4	教授	大浦誠士	
中古文学特殊研究（王朝文学・文化研究）	4	4	教授	今井　上	
中世文学特殊研究（中世文学・文化研究）	4	4	教授	蔦尾和宏	
近世文学特殊研究（近世文学・文化研究）	4	4			本年度休講
近現代文学特殊研究（近現代文学・文化研究）	4	4	教授	山口政幸	
近現代文学特殊研究（近現代文学・文化研究）	4	4			本年度休講
近現代文学特殊研究（近現代文学・文化研究）	4	4	教授	米村みゆき	
近現代文学特殊研究（近現代文学・創作）	4	4	教授	小林恭二	
近現代文学特殊研究（出版・現代文化研究）	4	4	教授	川上隆志	※1
近現代文学特殊研究（演劇研究）	4	4	教授	小山内　伸	本年度休講
中国文学特殊研究（中国文学研究）	4	4	教授	廣瀬玲子	
日本文化特殊研究（出版・現代文化研究）	4	4	教授	川上隆志	※2
日本文化特殊研究（演劇研究）	4	4	教授	小山内　伸	本年度休講

※1　令和5年度以前入学者のみ履修可能
※2　令和6年度入学者から履修可能

英語英米文学専攻

科　　目	単位		担当教員		備　考
	講義	演習	職名	氏名	
英文学特殊研究Ⅰ（詩・戯曲）	4	4	教授	道家英穂	
英文学特殊研究Ⅰ（詩・戯曲）	4	4	教授	末廣　幹	
英文学特殊研究Ⅱ	4	4	教授	大久保　譲	
英文学特殊研究Ⅲ	4	4			本年度休講
米文学特殊研究Ⅰ（19世紀アメリカ文学）	4	4			本年度休講
米文学特殊研究Ⅱ	4	4			本年度休講
米文学特殊研究Ⅲ（現代アメリカ文学）	4	4			本年度休講
米文学特殊研究Ⅲ	4	4	教授	中垣恒太郎	
英語学特殊研究Ⅰ（古期・中期英語）	4	4			本年度休講
英語学特殊研究Ⅱ（言語理論）	4	4			本年度休講
英語学特殊研究Ⅲ（音声学）	4	4	教授	三浦　弘	
英米文化特殊研究（アメリカ研究）	4	4			本年度休講
英米文化特殊研究（イギリス研究）	4	4	教授	石塚久郎	
応用言語学特殊研究（英語教育学・英語表現論）	4	4	教授	上村妙子	
応用言語学特殊研究（英語教育学・通訳論）	4	4	教授	田邉祐司	
応用言語学特殊研究（英語教育学・言語テスト理論）	4	4	教授	片桐一彦	

哲学専攻

科目	単位		担当教員		備考
	講義	演習	職名	氏名	
古代中世哲学特殊研究（古代ギリシア哲学）	4	4	教授	高橋雅人	
近代現代哲学特殊研究Ⅰ（近代ヨーロッパ哲学）	4	4	教授	伊藤博明	
近代現代哲学特殊研究Ⅱ（現象学）	4	4	教授	貫成人	
近代現代哲学特殊研究Ⅱ（分析哲学・現代英米倫理学）	4	4	教授	佐藤岳詩	
近代現代哲学特殊研究Ⅱ（現代フランス哲学）	4	4	教授	宮崎裕助	
近代現代哲学特殊研究Ⅲ	4	4			本年度休講
哲学方法論特殊研究（言語哲学・現代英米哲学）	4	4	教授	金子洋之	
実践哲学特殊研究（フランス倫理学）	4	4	教授	檜垣立哉	
日本精神史特殊研究（日本倫理思想史）	4	4	教授	出岡宏	
人間学基礎論特殊研究	4	4			本年度休講
教育哲学特殊研究	4				本年度休講

歴史学専攻

科目	単位		担当教員		備考
	講義	演習	職名	氏名	
日本史特殊研究Ⅰ（日本古代史）	4	4	教授	中林隆之	
日本史特殊研究Ⅰ（日本古代史）	4	4	教授	田中禎昭	
日本史特殊研究Ⅱ（日本中世史）	4	4	教授	湯浅治久	
日本史特殊研究Ⅲ（日本近世史）	4	4	教授	西坂靖	
日本史特殊研究Ⅳ（日本近代史）	4	4	教授	鬼嶋淳	
日本史特殊研究Ⅳ（日本近代史）	4	4	教授	廣川和花	
日本史特殊研究Ⅴ（日本現代史）	4		兼任講師	伊香俊哉	
東洋史特殊研究Ⅰ（中国古代史）	4	4	教授	飯尾秀幸	
東洋史特殊研究Ⅱ（中国近現代史）	4		兼任講師	田中比呂志	
東洋史特殊研究Ⅲ（朝鮮史）	4	4	教授	田中正敬	
東洋史特殊研究Ⅳ（南アジア史）	4	4	教授	志賀美和子	
東洋史特殊研究Ⅴ（西アジア史）	4	4			本年度休講
西洋史特殊研究Ⅰ（ヨーロッパ前近代史）	4	4	准教授	松本礼子	
西洋史特殊研究Ⅱ（ヨーロッパ近現代史）	4	4	教授	日暮美奈子	
西洋史特殊研究Ⅲ（イギリス近代史）	4		兼任講師	高林陽展	
西洋史特殊研究Ⅳ（フランス革命史）	4		兼任講師	高橋暁生	
西洋史特殊研究Ⅴ（アメリカ史）	4	4	教授	南修平	
東アジア考古学特殊研究Ⅰ	4	4	教授	高久健二	
東アジア考古学特殊研究Ⅱ	4	4	准教授	小林孝秀	
東アジア考古学特殊研究Ⅱ	4		兼任講師	小澤正人	
東アジア考古学特殊研究Ⅲ	4		兼任講師	小澤正人	
史料学特殊研究Ⅰ	4	4			本年度休講
史料学特殊研究Ⅱ	4	4			本年度休講

地理学専攻

科目	単位		担当教員		備考
	講義	演習	職名	氏名	
地域論特殊研究Ⅰ（歴史地域論）	4	4	准教授	三河雅弘	
地域論特殊研究Ⅱ（都市地域論）	4	4			本年度休講
地域論特殊研究Ⅲ（村落地域論）	4	4	教授	松尾容孝	
地域論特殊研究Ⅳ（人口地域論）	4	4	教授	江崎雄治	
地球環境論特殊研究Ⅰ（気候環境論）	4	4	教授	赤坂郁美	
地球環境論特殊研究Ⅱ（環境変動論）	4	4	教授	苅谷愛彦	
地球環境論特殊研究Ⅲ（自然地域論）	4	4	教授	高岡貞夫	
地球環境論特殊研究Ⅳ（応用測地論）	4	4	准教授	縫村崇行	
地域システム論特殊研究	4	4	教授	山本充	
地域特別研究法	4			江崎、苅谷 高岡、縫村 松尾、山本 赤坂、三河	

社会学専攻

科目	単位		担当教員		備考
	講義	演習	職名	氏名	
社会学特殊研究Ⅰ（比較社会論）	4	4			本年度休講
社会学特殊研究Ⅱ（職業・生活論）	4	4	教授	樋口博美	
社会学特殊研究Ⅲ（社会環境論）	4	4	教授	大矢根淳	
社会学特殊研究Ⅳ（地域社会学）	4	4	教授	鷭理恵子	
社会学特殊研究Ⅴ（都市社会学）	4	4	教授	藤原法子	
社会学特殊研究Ⅵ（産業･労働社会学）	4	4	准教授	勝俣達也	
社会学特殊研究Ⅶ（社会福祉論）	4	4			本年度休講
社会学特殊研究Ⅷ（コミュニケーション論）	4	4	教授	秋吉美都	
社会学特殊研究Ⅸ（現代文化論）	4	4	准教授	後藤吉彦	
社会学特殊研究Ⅹ（教育社会論）	4	4	教授	広瀬裕子	
社会学特殊研究Ⅺ（介護・ケア論）	4	4	教授	馬場純子	
社会学特殊研究Ⅻ（家族社会論）	4	4	教授	永野由紀子	
社会学特殊研究XIII（現代社会論）	4	4	教授	金井雅之	
社会学特殊研究XIV（エリアスタディーズ）	4	4	教授	菱山宏輔	
社会学特殊研究XV（社会意識論）	4	4	教授	嶋根克己	
社会学特殊研究XVI（生涯学習社会論）	4	4	教授	小峰直史	

心理学専攻

科目	単位		担当教員		備考
	講義	演習	職名	氏名	
基礎心理学特殊研究Ⅰ（心理学史・心理学基礎論）	4				本年度休講
基礎心理学特殊研究Ⅱ（認知）	4		教授	大久保 街亜	本年度休講
基礎心理学特殊研究Ⅲ（行動）	4		教授	澤 幸祐	
基礎心理学特殊研究Ⅳ（生理）	4		教授	石金 浩史	
基礎心理学特殊研究Ⅴ（情報）	4		教授	小杉 考司	
基礎心理学特殊研究Ⅵ（知覚）	4		教授	中沢 仁	
社会心理学特殊研究Ⅰ（対人行動）	4				本年度休講
社会心理学特殊研究Ⅱ（対人関係・集団力学）	4		教授	下斗米 淳	
発達心理学特殊研究Ⅰ（乳児期・幼児期）	4				本年度休講
発達心理学特殊研究Ⅱ（児童期・青年期）	4				本年度休講
臨床心理学特殊研究Ⅰ（心理療法）	4		教授	国里愛彦	
臨床心理学特殊研究Ⅱ（心理査定）	4		教授	高田夏子	
臨床心理学特殊研究Ⅲ（発達臨床）	4		准教授	藤巻るり	
臨床心理学特殊研究Ⅳ（障害）	4				本年度休講
臨床心理学特殊研究Ⅴ（犯罪・非行）	4				本年度休講
臨床心理学特殊研究Ⅵ（臨床神経心理）	4		教授	岡村陽子	
研究論文指導		4		澤、石金 小杉、中沢 下斗米、国里 高田、藤巻 岡村	

研究指導計画の概要（修士課程）

日本語日本文学専攻	［1年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス （4月） 　履修登録 　研究論文指導、履修授業科目講義・演習 ・中間論文発表会（日本語学コース、日本語プロフェッショナルコース）（8～9月） ・日本語日本文学文化学会（院生による研究発表：全コース）（10月） ［2年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス （4月） 　履修登録 、研究論文指導 　履修授業科目講義・演習 ・中間論文発表会（日本語学コース、日本語プロフェッショナルコース）（8～9月） ・日本語日本文学文化学会（院生による研究発表会：全コース）（10月） ・修士論文提出 、修士論文口述試験（1月）
英語英米文学専攻	［1年次］ ・オリエンテーション参加・研究倫理について学ぶ （4月） 　指導教員の決定 　履修科目の相談・決定 　研究計画書の作成・提出 ・プレゼンテーション練習 、2年生・博士後期課程の中間発表会に参加 、修士論文のテーマを決定（10月） ・修士論文の一部を発表（3月） ＊1年次は修士論文の準備を行う一方、専門領域以外の関連する授業に積極的に参加して広い視野と英語力を養う。 ［2年次］ ・オリエンテーション参加（4月） 　履修科目の相談・決定 　研究計画書の作成・提出 ・修士論文中間発表会（10月） ・修士論文提出（1月） ・主査副査による修士論文審査（1月） ＊2年次は指導教員のもと、修士論文作成を中心に研究を進める。
哲学専攻	［1年次］ ・ガイダンス（4月） ・新入生発表会（8月） ・修士論文構想発表会（10月） ［2年次］ ・専修大学哲学会大会（7月） ・修士論文提出（1月） ・論集『生田哲学』（3月）

歴史学専攻	［1年次］ ・オリエンテーションガイダンス（4月） 教員・授業概要の確認、院生の自己紹介、専修大学歴史会の案内 ・授業開始・履修登録（4月） ・研究計画の作成・提示（4月） ・専修大学歴史学会大会（6月） 院生全員が参加し、報告・討議 ・『専修史学』に院生の研究成果を掲載・発行（11月・3月） ［2年次］ ・オリエンテーションガイダンス（4月） 教員・授業概要の確認 、院生の自己紹介 ・授業開始・履修登録（4月） ・研究計画の作成・提示（4月） ・専修大学歴史学会大会（6月） 院生全員が参加し、報告・討議 ・修士論文のテーマ決定（10月） ・『専修史学』に院生の研究成果を掲載・発行（11月・3月） ・修士論文提出（1月） ・修士論文口述試験（1月）
地理学専攻	［1年次］ ・専攻教員によるガイダンスの後、指導教員による個別指導を行い、研究の方向性を定めるとともに、履修すべき科目を決定する。その後、学生は指導教員の指導を受け、研究テーマの選定、研究計画の立案など、修士論文作成に向けて必要な準備を進める。（4月） ・学生は、専攻の全教員が参加する修士論文中間発表会において修士論文の構想を発表し、教員の指導・助言を受ける。その後、学生は指導教員の指導のもとで修士論文作成の研究を進める。（10月） ［2年次］ ・学生は、専攻の全教員が参加する修士論文中間発表会において修士論文の研究の中間報告を行い、教員の指導・助言を受ける。10月には修士論文の題目を決定し、届け出る。（6月・10月） ・学生は修士論文を完成させ、提出する。また、専攻の全教員が参加する修士論文発表会において研究成果を発表し、さらに主査・副査による口頭試問を受ける。（1月） ・審査の結果合格と認められた場合、学位が授与される。（3月）

社会学専攻	［1年次］ 前期：修士論文の研究テーマを検討する。 ・オリエンテーション、指導教員の決定、履修登録（4月） ・必要に応じて大学院単位互換制度も活用し、修士論文に関連する知識を幅広く修得する。 ・研究倫理 e ラーニング ・日本語論文講座（留学生対象、前期） 後期：研究計画に基づいてデータの収集や分析を進める。 ・「修論構想発表会」で修士論文の構想（リサーチ・クエスチョン、先行研究、方法、スケジュール）を発表（10 月） ［2年次］ 前期：データの分析を終わらせ修士論文の骨格を固める。 ・オリエンテーション、履修登録（4月） ・研究倫理 e ラーニング ・チューターによる論文指導（留学生対象、通年） ・「修論概要発表会」で修士論文のアウトライン（目的、方法、結果、考察）を発表（7月） ・副査 2 名を内定（7月） 後期：修士論文の本文を仕上げる。 ・修士論文題目届を提出（10 月上旬） ・「修論草稿ワークショップ」（主査＋副査）で修士論文の本文草稿を発表（11 月） ・修士論文を提出（1月上旬） ・修士論文口述試験（1月下旬）
心理学専攻	［1年次］ ・修士論文計画書提出（3月） ［2年次］ ・修士論文中間発表会（6月） ・修士論文題目届提出（10 月） ・修士論文提出（1月） ・修士論文ポスター発表（1月） ・修士論文口述試験（1月）

研究指導計画の概要（博士後期課程）

日本語日本文学専攻	［1年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス（4月） 　履修登録 　研究論文指導、履修授業科目講義・演習 ・中間論文発表会（日本語学コース）（8～9月） ・日本語日本文学文化学会(院生による研究発表会：全コース)(10月) ［2年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス（4月） 　履修登録 　研究論文指導、履修授業科目講義・演習 ・中間論文発表会（日本語学コース）（8～9月） ・日本語日本文学文化学会(院生による研究発表会：全コース)(10月) ［3年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス（4月） 　履修登録 　研究論文指導、履修授業科目講義・演習 ・中間論文発表会（日本語学コース）、博士論文提出（8～9月） ・日本語日本文学文化学会(院生による研究発表会：全コース)(10月) ・博士論文口述試験（10月～11月）
英語英米文学専攻	［1年次］ ・オリエンテーション参加・研究倫理について学ぶ（4月） 　指導教員の決定 　履修科目の相談・決定 　研究計画書の作成・提出 ・中間発表会（修士課程・博士後期課程学生の他院生も参加）（10月） ・博士論文の一部を公表 、執筆資格審査書類を提出（3月） ＊1年次は博士論文執筆の計画を立てる一方、関連する授業にも参加して、広い視野と英語力を養う。 ［2年次］ ・オリエンテーション参加 　履修科目の相談・決定 　研究計画書の作成・提出（4月） ・中間発表会（修士課程・博士後期課程学生の他院生も参加）（10月） ・博士論文の一部を公表（3月） ＊2年次は指導教員のもとで博士論文執筆を進める一方、外部学会発表などに積極的に応募する。可能な場合は短期・長期の留学も考える。 ［3年次］ ・オリエンテーションに参加（4月） 　指導教員の決定 　履修科目の相談・決定 　研究計画書の作成・提出 ・研究計画書を改めて指導教員に提出（5月） ・中間発表会（修士課程・博士後期課程学生の他院生も参加）（10月） ・博士論文を完成提出　（9月） 　主査・副査による論文審査を受ける（11月～） ＊3年次は、引き続き外部の学会での発表に応募しながら、指導教員の指導のもとで博士論文の完成をめざす。

哲学専攻	［1年次］ ・ガイダンス（4月） ・新入生発表会（8月） ［2年次］ ・専修大学哲学会大会（7月） ・博士論文構想発表会（10月） ［3年次］ ・専修大学哲学会大会（7月） ・博士論文提出（9月） ・論集『生田哲学』（3月）
歴史学専攻	［1年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス（4月） 教員・授業概要の確認 院生の自己紹介 専修大学歴史学会の案内 ・授業開始・履修登録（4月） ・研究計画の作成・提示（4月） ・専修大学歴史学会大会（6月） 院生全員が参加し、報告・討議 ・『専修史学』に院生の研究成果を掲載・発行（11月・3月） ［2年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス（4月） 教員・授業概要の確認 院生の自己紹介 専修大学歴史学会の案内 ・授業開始・履修登録（4月） ・研究計画の作成・提示（4月） ・専修大学歴史学会大会（6月） 院生全員が参加し、報告・討議 ・『専修史学』に院生の研究成果を掲載・発行（11月・3月） ［3年次］ ・オリエンテーション・ガイダンス（4月） 教員・授業概要の確認 院生の自己紹介 専修大学歴史学会の案内 ・授業開始・履修登録（4月） ・研究計画の作成・提示（4月） ・専修大学歴史学会大会（6月） 院生全員が参加し、報告・討議 ・博士論文のテーマ決定（6月） ・博士論文提出（9月） ・博士論文口述試験〔公開〕（12月） 博士論文の審査報告書は『専修人文論集』に掲載、内容の一部は学位授与式で配付される ・『専修史学』に院生の研究成果を掲載・発行（11月・3月）

地理学専攻	［1年次］ ・専攻教員によるガイダンスの後、指導教員による個別指導を行い、研究計画を定める。その後、学生は指導教員の指導を受け、研究を進める。（4月） ・学生は、専攻の全教員が参加する中間発表会において博士論文の構想を発表し、教員の指導・助言を受ける。(10月) ・学生は当該年度の研究状況について研究報告書を作成し、指導教員に提出する。（1月） ［2年次］ ・学生は、専攻の全教員が参加する中間発表会において博士論文の研究の中間報告を行い、教員の指導・助言を受ける。（6月・10月） ・学生は当該年度の研究状況について研究報告書を作成し、指導教員に提出する。（1月） ［3年次］ ・学生は、専攻の全教員が参加する中間発表会において博士論文の研究の中間報告を行い、教員の指導・助言を受けるとともに、博士論文の題目を決定し、届け出る。（6月） ・学生は博士論文を完成させ、提出する。（9月） ・専攻の全教員が参加する博士論文発表会において研究成果を発表し、さらに主査・副査による口頭試問を受ける。(10〜12月) ・審査の結果合格と認められた場合、学位が授与される。（3月）
社会学専攻	［1年次］ 指導教員と協議しながら博士論文の構想の概要をまとめ、博士論文に向けた調査・分析・執筆を始める。 ・研究倫理 e ラーニング ・国内外での学会報告や学術誌への論文投稿をおこなう。 ・「博論フォーラム」で博士論文の構想（リサーチ・クエスチョン、先行研究、方法、スケジュール）を発表（10月） ・当該年度の研究状況について「研究報告書」を提出（1月末） ［2年次］ 指導教員と協議しながら、博士論文に向けた調査・分析・執筆を進める。 ・研究倫理 e ラーニング ・国内外での学会報告や学術誌への論文投稿をおこなう。 ・「博論フォーラム」で博士論文のアウトライン（目的、方法、結果、考察）を発表（10月） ・当該年度の研究状況について「研究報告書」を提出（1月末） ［3年次］ 指導教員と協議しながら、博士論文を完成させる。 ・研究倫理 e ラーニング ・国内外での学会報告や学術誌への論文投稿をおこなう。 ・博士論文の副査を内定（4月） ・「博論提出候補者発表会」で博士論文の本文草稿を発表（6月） ・「博士論文題目届」を提出（6月末） ・博士論文を提出（9月末） ・博士論文口述試験（11月頃）

心理学専攻	［１年次］ ・専攻内院生研究会にて研究発表（年度内３～４回開催，有志発表） ［２年次］ ・専攻内院生研究会にて研究発表（年度内３～４回開催，有志発表） ［３年次］ ・専攻内院生研究会にて研究発表（年度内３～４回開催，有志発表） ・博士論文題目届提出（６月） ・博士論文提出（９月） ・博士論文口述試験（10～12 月）

文学研究科　学位論文審査基準

修士課程

項　目	
①学位論文が満たすべき水準	修士論文は、当該専門分野における基本的知識を基にして、独自の研究課程を設定し、研究を遂行する基礎的能力を有することを示すものでなければならない。
②学位論文審査概要	修士の学位請求論文の審査は、その透明性・公平性を確保する観点から、文学研究科委員会の定める審査委員によって行うものとする。 １ 審査委員の体制 審査委員は、指導教授を主査とし、当該学位請求論文に関連する授業科目担当教員を副査とする。ただし、必要あるときは、本大学院の他の研究科又は学部の教員を副査とすることができる。 ２　学位請求論文の提出 修士の学位請求論文は１編とし、修士課程の在学年限内に指導教授を通じて文学研究科委員会に提出するものとする。 前項の学位請求論文は、３部を提出するものとする。 ３　学位請求論文の審査期間 最終試験は、文学研究科委員会の定めにより、学位請求論文を中心とした試問の方法によって行うものとする。 ４　審査の報告 修士の学位請求論文の審査並びに最終試験の結果は、文学研究科委員会の議を経た後、文学研究科長が学長に報告するものとする。
③審査項目	１．テーマの設定における問題意識の明確性や、自身の研究内容に合致していること。 ２．当該専門分野における基本的知識を基にした内容であること。 ３．資料・データが適切に収集・処理され、参考文献・参考資料等の引用が適切に行われていること。 ４．論旨が一貫しており、明確に結論が出されていること。 ５．結論において、独自の知見が加えられ、研究を遂行する基礎的能力を示すものであること。 ６．資料・データに改ざん等の不正な取り扱いが無いこと。
④審査方法	最終試験は、文学研究科委員会の定めにより、学位請求論文を中心とした試問の方法によって行うものとする。
⑤学位授与の要件	修士の学位は、本大学の大学院文学研究科修士課程に２年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に授与するものとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については１年以上在学すれば足りるものとする。

博士後期課程

項　目	
①学位論文が満たすべき水準	博士論文は、当該専門分野における幅広い知識を基にして、独立した研究者として、独創的な研究を遂行していく能力を有することを示すものでなければならない。
②学位論文審査概要	博士の学位請求論文の審査の透明性・公平性を確保する観点から、次のとおり基準を定める。 １　審査委員の構成 学位請求論文の審査を付託された文学研究科委員会は、学位請求論文の審査を行うため、審査委員会を設けるものとする。 審査委員会の構成は、指導教授を主査とし、当該学位請求論文に関連のある授業科目担当教員のうちから指名する２名以上の副査を加えて行うものとする。 必要があるときは、文学研究科委員会の議を経て、文学研究科の客員教員、兼任講師、他の研究科若しくは学部の教員又は他大学の大学院、学部若しくは研究所等の教員等の協力を得ることができる。 ２　学位請求論文の提出 学位を請求することができる者は、文学研究科委員会が専修大学大学院学則で定める修了の期日までに修了することができると認めた者で、同日まで在籍する見込みがあるものとする。 学位請求論文の提出は所定の学位申請願に、学位請求論文１編３部及び論文要旨３部を添え、指導教授を通じて、文学研究科委員会に提出するものとする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。 前項の学位請求論文は、製本したもの３部を提出するものとする。 学位を請求することができる期間は、本大学院の文学研究科博士後期課程に入学した時から９年以内とし、休学期間は、これに含めないものとする。この場合において、学位請求論文は、在学期間中に提出するものとする。 ３　学位請求論文の審査期間 学位請求論文の審査は、当該学位請求論文を受理した日から、１年以内に終了するものとする。ただし、第13条第２項に規定する者については、文学研究科委員会の議決により、その期間を延長することができる。 ４　審査委員会の審査報告 審査委員会は、学位請求論文の審査及び最終試験又は口頭試問の終了後、速やかに、学位請求論文の内容の要旨、審査の要旨、最終試験又は口頭試問の結果の要旨及びその成績に、学位を授与できるか否かの意見を添え、文学研究科委員会に、文書をもつて報告するものとする。 審査委員会は、前項の報告をした後、学位請求論文及び同項に規定する審査報告書を文学研究科委員会の委員の閲覧に供するため、１か月の期間を置くものとする。

項　目	
②学位論文審査概要	審査委員会が学位請求論文の審査の結果その内容が学位を授与するのに値しないと認めたときは、最終試験又は口頭試問を行わないことができる。この場合、審査報告者に評価に関する意見を記載することを要しない。
③審査項目	1．テーマの設定における問題意識の明確性や、自身の研究内容に合致していること。 2．当該専門分野における幅広い知識を基にした内容であること。 3．資料・データが適切に収集・処理され、参考文献・参考資料等の引用が適切に行われていること。 4．論旨が一貫しており、明確に結論が出されていること。 5．結論において、独自した研究者として、独創的な研究を遂行していく能力を示すものであること。 6．資料・データに改ざん等の不正な取り扱いが無いこと。
④審査方法	最終試験は、当該審査委員会が学位請求論文を中心として、これに関連ある授業科目にわたり口頭試問により行うが、筆答試問を併せて行うことができる。
⑤学位授与の要件	博士の学位は、本大学院文学研究科の博士後期課程に3年以上在学し、博士課程所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に授与するものとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。

学位請求論文の提出について

1．修士論文

「学位請求論文（修士）」（以下「論文」という。）は、**各専攻別「修士論文作成要領」**に添って作成・提出してください。

なお、論文作成過程においては、指導教授の指導を十分に受けてください。

(1)　論文題目届の提出について

「修士論文題目届」を提出しない者は、「学位請求論文（修士）」は理由の如何を問わず受け付けませんので、十分注意してください。なお、当該年度の決められた提出期限までに「修士論文題目届」（所定用紙）を提出してください。

①　「修士論文題目届」提出期限

研　究　科	提　　出　　期　　限	提　出　場　所
文学研究科	令和6年10月11日（金）　17時まで	大学院事務課

②　本年度、論文を提出する者は、「修士論文題目届」に論文の題目を記入し、指導教授の承認印を得て、提出してください。

③　「修士論文題目届」提出後、題目に変更があった場合は、指導教授に相談し、印鑑を持参の上、すみやかに大学院事務課へ連絡してください。

④　論文を提出しない者も、「修士論文題目届」にその旨を記入し、指導教授の承認印を得て、提出してください。

⑤　「修士論文題目届」の用紙は大学院事務課にて配付します。

(2)　論文の提出期限

本年度の論文提出期限は、次のとおりです。

「修士論文題目届」を提出しない者は、「学位請求論文（修士）」は理由の如何を問わず受け付けませんので、十分注意してください。

研　究　科	提　　出　　期　　限	提　出　場　所
文学研究科	令和7年1月8日（水）　17時まで	大学院事務課

※「修士論文題目届」及び「修士論文」の提出受付は、上記の提出期限までです。従って、指定された提出期限を過ぎた場合は、理由の如何を問わず受け付けませんので、十分注意してください（各自、余裕を持って、早目の提出を心がけてください）。

⑶　修士論文の形式

①　論文のサイズ

各専攻の「修士論文作成要領」に従ってください。

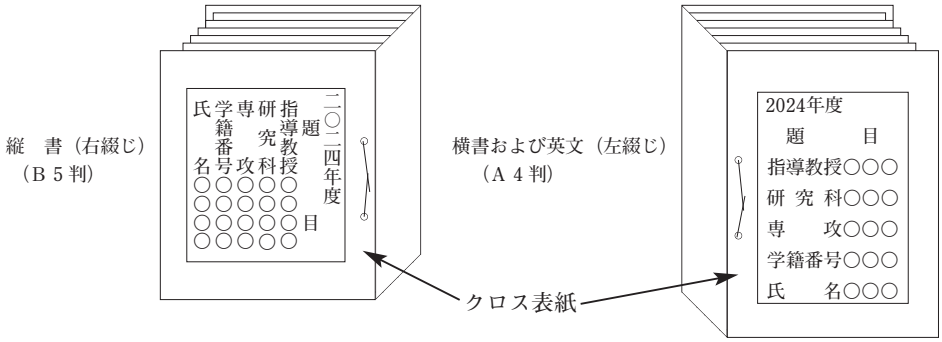
②　論文の装丁

各専攻の「修士論文作成要領」に表紙の装丁の規定がある場合は、それに従うこと。規定のない場合は論文（３冊）にクロス（黒）表紙（厚紙）・裏表紙を付け、下記の《見本》を参考に表紙に年度・題目・指導教授名・研究科・専攻・学籍番号および氏名を明記して提出すること。

また、**各専攻とも表紙に記載した同じ内容の用紙を原稿の最初に付け中扉とし**、中扉・目次・本文の順に綴って提出してください。

なお、ページ番号は本文のみに付けてください（**各専攻の「修士論文作成要領」に規定がある場合はそれに従うこと**）。

《 見　本 》



③　筆記用具

手書きの場合・・・万年筆またはボールペン等、長期保存に耐えられるもので書いてください。

ワープロの場合・・印刷はリボン・インクまたはトナーによる印刷にしてください。感熱紙は長期保存に耐えられないため、感熱紙で出力の場合は印刷した原稿をコピーして使用してください。

⑷　論文の提出

論文の提出時には、**学生証および通学定期乗車券発行控（論文の受領印を押します。紛失しないよう注意してください。）を携帯し**、次のものをそろえて提出してください。

①　学位申請願（必要事項記入のうえ、指導教授の承認印があるもの。）

＊　学位申請願に記載された論文題名を正式とします。

※**請求学位については、本要項に掲載の「専修大学学位規程」を参照し、まちがいのないよう記入してください（日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻の学**

位については修士（文学）となるので注意してください)。

② 修士論文（学位請求論文）　3部

③ 論文要旨　3部、400字詰原稿用紙5枚以内（ワープロの場合A 4判2,000字以内）

※必ず、学籍番号、氏名、ページを明記しホチキス止めしてください。

※各専攻の「修士論文作成要領」に規定がある場合は、それに従ってください。

※社会学専攻については、論文に挟む要旨以外の提出は不要です。

④ 学位記氏名筆耕申込書（学位記を作成する際、氏名筆耕の原稿として使用します。）

⑤ 84円切手1枚（最終試験（口述試験）の連絡用）

(5) 最終試験

提出された論文に関する最終試験の期日は、郵送にて連絡します。最終試験に合格した者には修士の学位が授与されます。

(6) 提出された論文の取扱い

最終試験に合格した論文3部のうち2部は大学で製本の上、指導教授、本学図書館で保管します。1部は提出者に返却します。なお、個人製本を希望する場合は個人負担となります。（個人負担の製本については別途掲示します。）

(7) 修士論文2冊分のコピー代の助成

提出する修士論文3冊（**論文要旨等その他の提出物は除く。**）のうち、2冊分の作成用として、コピー代をコピーカードにて助成します。手続は、大学院事務課へ本人が直接申し込んでください。（詳細については、11月頃掲示にてお知らせします。）

修士論文作成要領（日本語日本文学専攻）

2017. 7.30

1．用紙・規定枚数

A 4 用紙を用い、以下のいずれかの書式によること。

1）ワープロによる横書き（用紙縦長）　40 字 × 30 行 × 34 ページ以上

2）ワープロによる縦書き（用紙横長）　40 字 × 30 行 × 34 ページ以上

3）ワープロによる縦書き（用紙縦長）　50 字 × 24 行 × 34 ページ以上

注 1）図版・表は規定枚数に含む。

注 2）目次は規定枚数に含まない。

＊ 手書は原則として認めないが、やむを得ない場合は、指導教員の指示にしたがうこと。

2．表紙の装丁

完成した論文（正 1 部、副 2 部　計 3 部）にはクロス表紙（厚紙）を付け年度・題目・指導教授名・研究科・専攻・学籍番号・氏名を明記すること。

また、表紙と同じ内容を記載した用紙を原稿の最初に付けて中扉とし、中扉・目次・本文の順に綴ること。(表紙のクロス表紙は、後に製本する際取りはずします。)

なお、ページ番号は本文のみに付けること。

修士論文作成要領（英語英米文学専攻）

2019. 2. 5

1．英文による主論文および日本語による要旨、もしくは日本語による主論文および英文による要旨を各 3 部、指定された期限までに提出する。

2．論文形式

Ａ 4 用紙（感熱紙は不可）にワープロソフトを使用して書くものとする。主論文には表紙（Ａ 4 判板目クロス表紙)、タイトル、ページ、目次、文献目録等を付す。

（1）主論文が英文の場合

主論文は、1 行約 64 ストローク、1 頁 25 行で 30 頁以上とする。文献目録は規定枚数に含まれない。各頁に通し番号を付す。日本語の要旨は、1 行 32 字、1 頁 25 行、1 頁（ 800 字）以上とする。

（2）主論文が日本語の場合

主論文は、1 行 32 字、1 頁 25 行で 40 頁以上とする。文献目録は規定枚数に含まれない。各頁に通し番号を付す。英文の要旨は、1 行約 64 ストローク、1 頁 25 行で 2 頁以上とする。

（3）論文の装丁は、大学院要項 P. 186 の「学位請求論文の提出について」に従って作成すること。

修士論文作成要領（哲学専攻）

2019. 1

1．書式と用紙について

（1）原則としてワープロによるものとする。ただし、指導教授の許可を得た場合には手書きによるものも可。

（2）縦書きとするか横書きとするかは自由

（3）用紙は、ワープロによる場合はＡ４判、手書き横書きの場合は400字詰めＡ４原稿用紙、手書き縦書きの場合は400字詰めＢ４原稿用紙とする。

（4）１枚の字数は、ワープロ横書きの場合は800字、ワープロ縦書きの場合は600字、手書きの場合は400字とする。

2．規定枚数について

400字詰め原稿用紙に換算して80枚以上（注、参考資料を含む）

3．注について

本文の該当箇所に注番号（数字）をつけ、原則として巻末に一括する。ただし、横書きの場合には脚注も可

4．引用文献、参考文献について

本文および注における文献の引用・参照に際しては、著者名、刊行年、該当ページを記し、巻末に参考文献一覧をつける（ただし、同一著者について一つの文献しか挙げていない場合は刊行年を省く、また、同一著者について同一年に属する複数の文献を挙げている場合には、刊行年の後に記号等を付して区別する）

5．表紙について

仕上がった論文にはクロス表紙を付け、年度・論文題目・指導教授名・研究科名と専攻名および学籍番号氏名を明記する

6．論文要旨について

400字詰め原稿用紙換算5枚程度の論文要旨を作成し、論文に添えて提出する（書式・用紙は１．に準ずる）

7．提出部数について

論文本体・論文要旨とも3部を提出する

＊ 論文の作成・提出については大学院要項P. 186の「学位請求論文の提出について」も参照すること。また疑義のある点については指導教授に相談すること。

修士論文作成要領（歴史学専攻）

2017. 2. 21

1．用紙について

a．ワープロによる縦書きの場合・・・Ｂ５判用紙に１頁600字（40字×15行）印字し、右綴じとする。

b．ワープロによる横書きの場合・・・Ａ４判用紙に１頁800字（32字×25行）印字し、左綴じとする。

c．手書きによる縦書きの場合・・・・Ｂ４判400字詰原稿用紙二つ折り右綴じで、出来上がり、Ｂ５版とする。

d．手書きによる横書きの場合・・・・Ａ４判400字詰原稿用紙で左綴じとする。

但し、① Ｂ４判400字詰原稿用紙にワープロで縦書き印字、Ａ４判400字詰原稿用紙にワープロで横書き印字してもよい。その場合は手書きに準ずる。

② 上記ａ、ｂの場合は、綴じ込み部分を余白として4cm以上とること。

③ 熱転写による印字方式のワープロの場合は、必ず複写したものを提出すること。

2．規定枚数

400字詰原稿用紙100枚以上（図、表、註を含む）。ワープロによる上記ａの場合は67枚以上、ｂの場合は50枚以上。

3．表紙について

出来上がった論文にクロス表紙をつけ、年度・題目・指導教授名・研究科・専攻・学籍番号および氏名を明記すること。

4．論文の提出

① 論文と共に次のものをそろえて大学院事務課窓口に提出すること。

イ．修士論文　正副３部

ロ．論文要旨　400字詰原稿用紙５枚以内（ワープロによるＢ５判またはＡ４判用紙への印字2000字以内でも可）３部

5．提出した論文の取扱い

最終試験に合格した論文は、図書館と指導教授のもとで保管される。

なお、修士論文の作成・提出については大学院要項P. 186の「学位請求論文の提出について」も参照すること。また不明な点については指導教授に相談すること。

修士論文作成要領（地理学専攻）

2003. 12. 1

1．用紙について

Ａ４判の白紙を使い、縦長横書きにして、1ページ800字（横32文字×25行）印刷する。レイアウトは左余白を40 mm、その他の余白は30 mm程度とし、ページ番号を下余白中央に印字する。

2．規定枚数について

本文は、25枚以上75枚以下とする。ただし、目次、図、表、写真、ならびに論文末の文献は規定の枚数に算入しない。

本文には、必ず通しページを打つものとする。ただし、目次、図、表、写真、および文献にはページは打たないこと。

3．図、表、写真について

図、表、写真はＡ４判の白紙に添付し、引用箇所の近くに挿入する。添付の際、将来製本することを考慮して、少なくとも、左余白を30 ㎜、上、下および右余白を5 ㎜は取る。Ａ４判よりも大きい図は、Ａ４判以下の大きさに折りたたみ、袋に入れて論文末尾に挿入する。図表、資料などの分量が多い場合には、別冊にするか、まとめて論文末尾に挿入する。

4．要約について

2,000字以内の要約を3部作成し、論文3部とともに提出する。

5．文献について

文献の表記の仕方は別紙を参考に作製する。

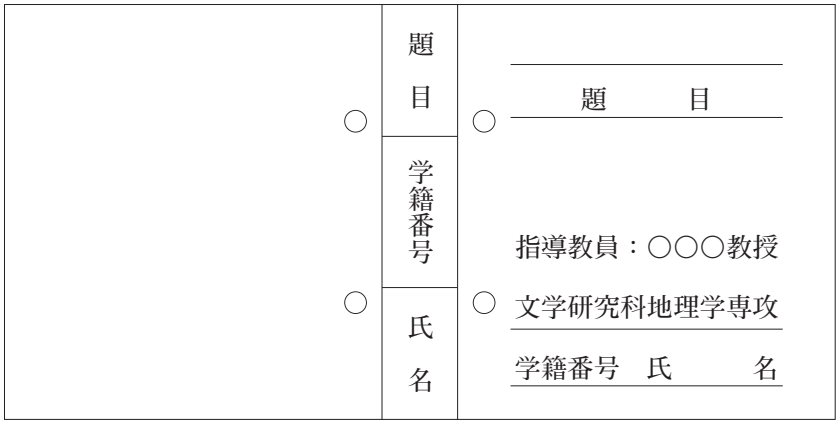
6．注について

注が必要な場合には、本文の該当箇所右肩に片括弧付きの一連番号の数字を付し、本文の末尾に注”として番号を付して、まとめて横42文字×40行で記述する。

7．表紙について

市販のＡ４判フラットファイルを使用し、左綴じとし、表紙の指定された場所に、題目、指導教員、所属（研究科・専攻）、学籍番号、氏名を書く（図参照：例）。

〈装　丁〉　　（表）　　（裏）



文献の表記の仕方

1．本文中の文献引用　本文中では次の例にならい，著者の姓（まぎらわしい場合は名と併記），発表年，必要ならば引用ページを書く．

単独著者の例：田中（1927，p. 10）はこれを……と呼んだ．　辻村（1923a, pp. 30-34）によれば……，　国土地理院（1973）によれば……，　田中（1972a. b）によれば，　これらの研究（Yamasaki, 1922：辻村，1923b）によると……，……という見方もある（Yamasaki, 1926：Schwind, 1965）．

共著の例：田中・幸田（1927）は……，　Yamasaki and Tada（1928）は……［２人の場合］
田中ほか（1927）は……，　Yamasaki *et al.*（1928）は……［３人以上の場合］

2．文献表

1）邦文文献を先にし，著者名の五十音順に並べる．欧文文献は後にして著者名のアルファベット（著者本人の慣用綴りによる）順に並べる．

2）同じ著者の文献は年代順に並べるが，同一年のものがある場合には，原則として引用順にａ，ｂ，ｃ，……を付して並べる．

3）共著者のある場合は，その数の少ない順に並べる，著者が３人以上に及ぶ場合でも文献表では全著者名を列記する．

4）欧文単行本名，欧文雑誌名はイタリック体とする．邦文雑誌名は略記せず，欧文雑誌名を略記表示する場合は，正式な略記法にのっとり，過度な略記は避ける．略記が一般化していない場合，他誌と混同しやすい誌名，地理学関連の雑誌上で引用例が少ない誌名などは省略せずに記す．

5）雑誌の巻数は太字（ボールド）体，巻号のある雑誌で巻ごとに通しページならば号数は省略し，号ごとにページが変わる場合には３（４），1-21 のように書く．巻がなく，号のみのものは６号，No. 6 のように書く．

6）ページ数は単行本では総ページ数，雑誌（論文集）では論文の最初と最後のページを（-）でつなげて書く．

7）文献は原典通りの記載を原則とするが，言語によってはラテン文字化が必要な場合がある．

文献表の例：

国土地理院（1973）：『沿岸海域基礎調査報告書（豊橋・伊良湖岬地区）』，建設省国土地理院，63p.

成瀬敏郎（1989）：日本の海岸砂丘，地理学評論，62A，129-144.

田中啓爾・幸田清喜（1927）：白山山麓に於ける出作地帯．地理学評論，3，281-298, 382-396.

辻村太郎（1923a）：『地形学』，古今書院，610p.

渡辺　光（1956）：海岸地形，富田芳郎編：『自然地理　Ⅰ』，朝倉書院，283-320.

Schwind, M. (1967): *Das Japanishe Inselreich. Band I,* Walter de Gruyter, Berlin, 581S.
King, C. A. M. (1966): *Techniques in geomorphology.* Edward Arnold, London, 342p.
Tomita, Y. (1956): Hydrography and irrigation system in the Yonezawa Basin. *Sci. Rep. Tohohu Univ.,* Ser. 7 (Geography), No. 5, 15-26.
Webb, W. L. (1969): Dynamic climatology of the stratosphere. Rex, D. F. ed.: *Climate of the free atmosphere* (*World survey of climatology,* 4). Elsevier, Amsterdam, 281-381.
Yamasaki, N. and Tada, F. (1928): The Okutango Earthquake of 1927. *Bull. Earthq. Res. Inst.,* 4, 159-178.

3．訳書の場合

1）邦訳書そのものを中心に扱いたい場合は邦文文献中にいれ，次の例にならい邦文文献に準じた表記の後に欧文文献に準じた表記を併記する．

2）原著を中心に扱いたい場合は，上と前後を逆にして欧文文献中に入れる．

邦訳書を中心に扱う例：

シェパード, R. N., ロムニ, A. K., ナーラブ, S. B. 編，岡太彬訓・渡辺恵子共訳 (1976): 『多次元尺度構成法Ⅰ：理論編』，共立出版社，278p. Shepard, R. N., Romney, A. K. and Nerlove, S. B. eds. (1972): *Multidimensional scaling* Ⅰ*: theory.* Seminar Press, New York, 261p.

原著を中心に扱う例：

Shepard, R. N., Romney, A. K. and Nerlove, S. B. eds. (1972): *Multidimensional scaling* Ⅰ*: theory.* Seminar Press, New York, 261p. シェパード, R. N., ロムニ, A. K., ナーラブ, S. B. 編，岡太彬訓・渡辺恵子共訳 (1976)：『多次元尺度構成法Ⅰ：理論編』，共立出版社，278p.

修士論文作成要領（社会学専攻）

2023. 4. 1

1．論文の作成にあたっては以下の要領を参照にするとともに担当教員の十分な指導を受けること。

2．用紙について

・A 4 判、横書きで、上余白 40 mm、下左右余白 30 mm を取り、1 ページ 1,200 字（40 字× 30 行）。

・片面印刷

3．分量について

・本文は 40,000 字相当以上とする。図表（大きさで換算）・注は含み、要旨・目次・文献リストは含まない。

・要旨は 2,800 字以内とする。

4．図表について

・図・表は原則として本文中に挿入すること。

5．本文、注、文献リストなどの体裁は、日本社会学会が提供する「社会学評論スタイルガイド」（https://jss-sociology.org/bulletin/guide/）に準拠すること。

6．体裁について

・市販のA 4 判フラットファイル（グリーン）を使用し、左綴じ。背表紙および表紙にタイトル・専攻名・学籍番号・氏名を記入。

・中扉（表紙と同じ内容を記載）、要旨、目次、本文の順に並べる。

・章ごとに改頁すること。

・文献リストは巻末にまとめて示すこと。

・頁付けは、要旨と目次にはローマ数字の小文字（ⅰ ⅱ ⅲ）を使用、本文はアラビア数字（１２３……）を使用のこと。

7．提出部数

・３部。

修士論文作成要領（心理学専攻）

2022.1.25

1．論文の作成にあたっては以下の要領を参照するとともに、指導教員の指導を受けること。

2．論文の基本要件

① 形式について

プリンター等を使用して、A 4 版の無地白色用紙を縦置きに、横書きで印刷すること。

また、1 ページ 800 字程度（32 字 × 25 行）とし、天地左右に 3 cm 以上の余白を取り、明朝系の 12 ポイント程度のフォントで用紙の片面に印字すること。

② 規定枚数について

論文の分量は、論文を扱う分野や内容によって異なるので一律に決めるのは無意味であるが、1 枚 800 字相当で 30 枚以上を目安とする。論文には必ずページ番号を打つこと。目次は規定の枚数に参入しない。なお、図表のみのページは原則として規定枚数に参入しない。

3．論文の構成について

論文の構成は基本的には、目次、序文、目的、方法、結果、考察、要約、及び引用文献からなるものとする。目次はページを参照するものでなければならない。目次は本文のページ数に含まない。規定枚数としても算入しない。本文の一部としての要約は、およそ 1000 文字を目途に、目的、方法、結果、考察すべてを網羅するように書くこと。

4．引用文献の書式について

引用文献の書式は、原則として、日本心理学会発行の「心理学研究の手引き」の「第 3 章 9 節　引用文献」にしたがうこと。

5．その他の注意事項

数字・数式、統計記号、本文中における文献の引用、文章の引用、等については日本心理学会発行の「心理学研究の手引き」の「第 3 章 3 節　数字・数式、統計記号」、及び、「第 3 章 6 節　引用・言及」にしたがうこと。

2．博士論文

博士の学位には課程博士と論文博士があります。

「課程博士」

本大学院の博士後期課程に３年以上在学して各研究科所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、在学中に学位請求論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者。

「論文博士」

本大学院を退学し、３年以上経過した者および本大学院の課程を経ない者であっても、学位請求論文を提出して、その審査に合格し、かつ、専攻学術及び外国語に関し、本大学院の課程を修了して学位を授与される者と同等以上の学識を有すると認められた者。

Ⅰ．課程博士

「学位請求論文（課程博士）」（以下「論文」という。）は、次の要領に添って作成・提出してください。

なお、論文作成過程においては、指導教授の指導を十分に受けてください。

⑴　論文題目届の提出について

「博士論文題目届」を提出しない者は、「学位請求論文（課程博士）」は理由の如何を問わず受け付けませんので、十分注意してください。なお、当該年度の決められた提出期限までに「博士論文題目届」（所定用紙）を提出してください。

①　「博士論文題目届」提出期限日

研　究　科	提　　出　　期　　限	提　出　場　所
文学研究科	令和６年６月28日（金）　17時まで	大学院事務課

※　詳細および変更については掲示でお知らせします。

②　本年度、論文を提出する者は、「博士論文題目届」に論文の題目を記入し、指導教授の承認印を得て、提出してください。

③　「博士論文題目届」提出後、題目に変更があった場合は、すみやかに大学院事務課に連絡してください。

④　論文を提出しない者も、「博士論文題目届」にその旨を記入し、指導教授の承認印を得て、提出してください。

⑤　「博士論文題目届」の用紙は大学院事務課にて配付します。

⑥　**「博士論文題目届」の提出受付は、上記の提出期限までです。従って、指定された提出期限を過ぎた場合は、理由の如何を問わず受け付けませんので、十分注意してください（各自、余裕を持って早目の提出を心がけてください）。**

⑵　論文の提出期限

「博士論文題目届」を提出しない者は、「学位請求論文（課程博士）」は理由の如何を問わず受け付けませんので、十分注意してください。

研　究　科	提　　出　　期　　限	提　出　場　所
文学研究科	令和６年９月30日（月）　17時まで	大　学　院　務　課

※　詳細および変更があった場合には掲示でお知らせします。

⑶　**論文の提出受付は、上記の提出期限までです。従って、指定された提出期限を過ぎた場合は、理由の如何を問わず受け付けませんので、十分注意してください（各自、余裕を持って早目の提出を心がけてください）。**

⑷　論文の形式は、修士論文に準じます。各専攻により作成要領が異なりますので注意して下さい。**詳細は、P187およびP189～P197を確認の上作成して下さい。**

⑸　論文の提出

①　学位申請願（所定用紙）１部（必要事項記入のうえ、指導教授の承認印があるもの。）

＊　学位申請願に記載された論文題目を正式とします。

※**請求学位については、本要項に掲載の「専修大学学位規程」を参照し、まちがいのないよう記入して下さい（日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻の学位については博士（文学）となるので注意してください）。**

②　博士論文（学位請求論文）３部

③　論文要旨　３部

④　履歴書および業績書（所定用紙）１部

⑤　学位記氏名筆耕申込書（学位記を作成する際、氏名筆耕の原稿として使用します。）

⑥　84円切手１枚（最終試験（口述試験）の連絡用）

⑹　最終試験

提出された論文について、学位請求論文を中心として、これに関連ある授業科目について試問の方法により行います。

⑺　提出された論文の取扱い

論文審査及び最終試験に合格した論文は、指導教授（１部）及び本学図書館（１部）で保管されます。

⑻　学位記授与式

令和７年３月22日（土）

⑼　博士論文（課程博士）２冊分のコピー代の助成

提出する博士論文（課程博士）２冊分（**論文要旨等その他の提出物は除く。**）のコピー代をコピーカードにて助成します。手続は、大学院事務課へ本人が直接申し込んでください。

Ⅱ．課程博士の学位請求論文提出期限及び学位記授与に関する特例措置（在学生適用）

「博士論文題目届」提出（6月30日期限）後、学位請求論文を止むを得ない理由により、9月30日の提出期限までに提出できなかった場合、指導教授の許可の下、学生本人の意思を書面で提出してもらい、10月中に所属する研究科委員会の承認を得ることにより、学位請求論文の提出を翌年度の4月28日（4月28日が日曜日の場合は4月27日）まで延期することができます。その場合の合格者の学位記授与については、9月20日が修了日となり、学位記授与は9月20日以降9月末日までの間に行います。なお、この特例措置は最長在学年限（6年）内でのものに限ります。

特例措置年度の学籍については、必ず在学手続（履修届、学費納入）を行ってもらいます。なお、特例措置年度の履修科目の成績については、年度途中の修了のため単位認定できません。また、学費については、現行どおりとなります。

9月30日までに提出し、その後、取下げをした学位請求論文については、この特例措置は適用されません。翌年度以降改めて題目届から行うことになります。

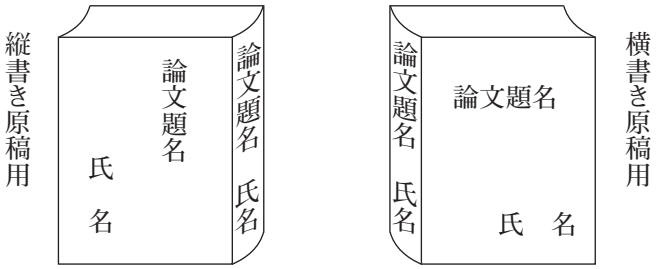
※ 令和5年度特例措置による学位請求論文の提出延期が承認された者については、学位請求論文の提出期限は令和6年4月27日（土）12時までとなります。

Ⅲ．論文博士

⑴ 論文の提出日は随時とします。なお、詳細は大学院事務課に問い合わせてください。

⑵ 論文の作成基準は、著書以外、原稿のサイズをＡ4判とし、《見本》を参照の上、論文題名、氏名を明記し、**製本業者によって製本されたものを提出してください。**

《見　本》



⑶ 提出書類

① 学位申請願（所定用紙）1部

＊学位申請願に記載された論文題名を正式とします。

② 学位請求論文　3部（製本済のもの）

③ 論文要旨　3部

④ 履歴書および業績書（所定用紙）1部

⑷ 提出先　大学院事務課

⑸ 提出された論文の取扱い

論文審査及び最終試験に合格した論文は、主査（1部）及び本学図書館（1部）で保管されます。インターネットでの公表用にもう1部いただく場合があります。

⑹ 口述試験の日時及び学位授与の可否については、申請者に本学から直接連絡します。なお、学位申請後、審査期間中に住所を変更した場合には、必ず大学院事務課に届け出てください。

3．学位論文に係る評価の基準

（修士論文）

修士の学位を授与するに値する研究業績を上げたと認められる場合、合格とする。

（博士論文）

博士の学位を授与するに値する研究業績を上げたと認められる場合、合格とする。

専門社会調査士について

文学研究科修士課程社会学専攻は、平成 17 年度から専門社会調査士の資格認定科目を設置している機関として社会調査協会に認定されております。社会調査士の資格を持つ者が、「社会調査実習Ⅰ」「社会調査実習Ⅱ」「社会調査実習Ⅲ」の単位を修得し、社会調査の結果を用いた修士論文を執筆すれば、専門社会調査士の資格を取得することができます。

臨床心理士について

本大学院の文学研究科心理学専攻臨床心理学領域は、（公財）日本臨床心理士資格認定協会より第一種の指定を受けています。この領域の修士課程を修了した者は（公財）日本臨床心理士資格認定協会が実施する臨床心理士資格を取得するための受験資格が得られます。

臨床心理士資格を取得するためには、以下の ① 及び ② の条件を満たすことが必要です。条件を満たしていない場合には、本大学院を修了しても、臨床心理士の受験資格は得られませんのでご注意ください。

① 大学院入学後は、資格取得に必要な科目を履修すること。資格取得に必要な科目は、ガイダンス時に指示します。
② 修士論文は、臨床心理学に関するものであること。

ＧＩＳ専門学術士について

専修大学大学院文学研究科地理学専攻は、ＧＩＳ専門学術士の資格認定科目を設置している機関として、（社）日本地理学会に指定されています。ＧＩＳ学術士の資格基準を満たす者が修士課程において一定の授業科目の単位を修得し、ＧＩＳ（地理情報システム）を利用した修士論文を執筆して修士課程を修了すれば、ＧＩＳ専門学術士の資格を取得することができます。